（3）戸田市人口ビジョンの対象期間

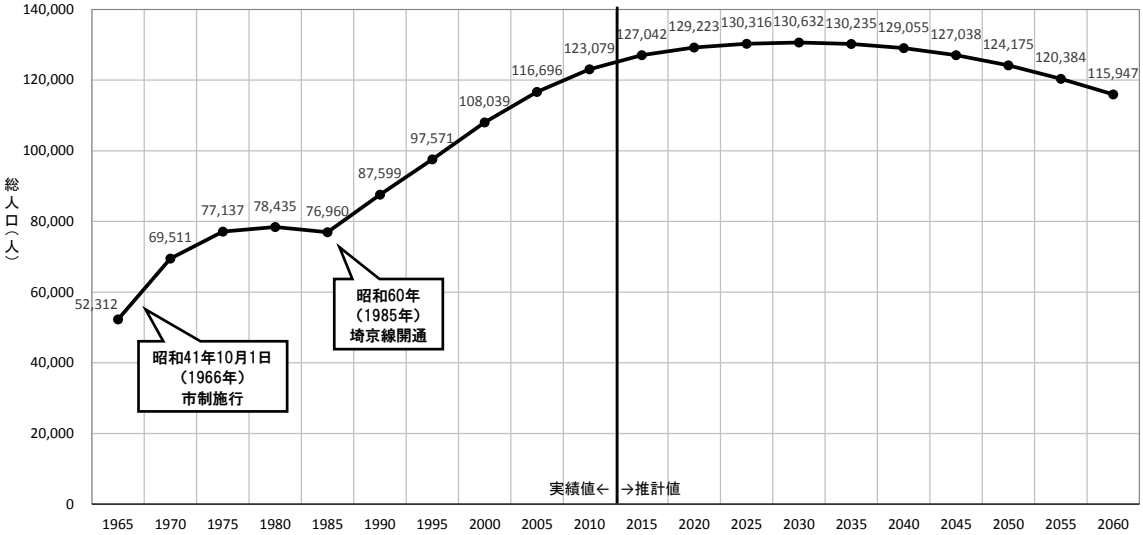
・戸田市人口ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を踏まえ、2060 年までの 45 年間を対象とします。

第2章　人口の動向

1.　人口の推移

（1）総人口の推移

○総人口は 1966 年の市制施行後に急増しましたが、1975 年から 1985 年にかけて 8 万人弱で頭打ちとなっていました。しかし、1985 年の埼京線開通を契機に現在も増加を続けており、2010 年時点で 12.3 万人を突破しています。今後も、ペースは鈍るものの増加を続けることが見込まれており、国立社会保障・人口問題研究所推計によると、2030 年前後に約 13.1 万人でピークを迎えると見込まれています。



（出典）実績値：総務省「国勢調査」、推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

図 2　総人口の推移（実績値、推計値）

（2）年齢階級別人口の推移

ア．年齢３区分別・人口

［65 歳以上：老年人口］

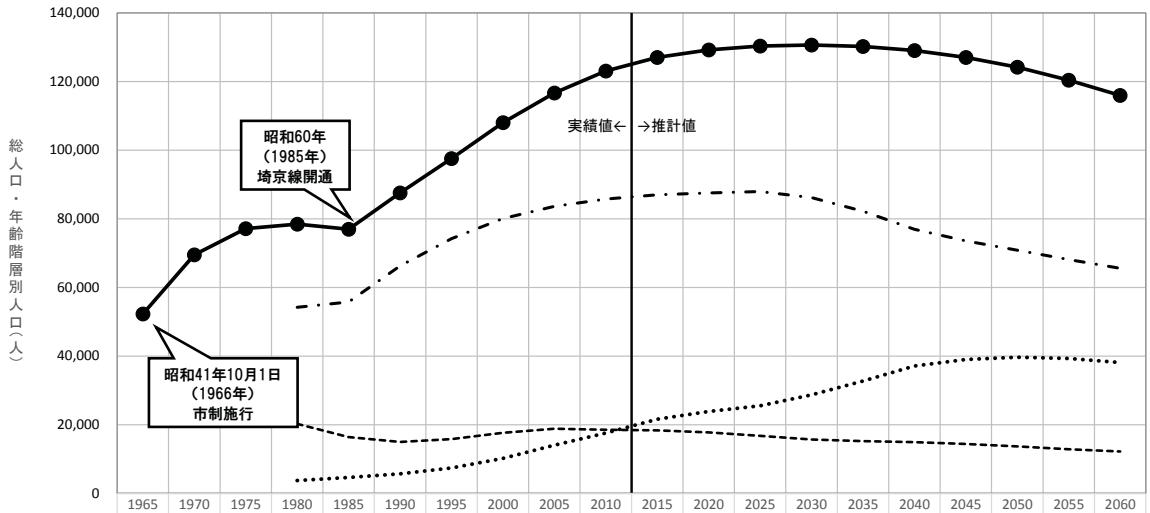
○急速に増加を続けており、社人研推計によると、2040 年頃までは、現在の傾向線に沿って増加を続けると見込まれています。

［15～64 歳：生産年齢人口］

○増加のペースが鈍り始めており、総人口に先んじて、2025 年前後に減少に転じると見込まれています。

［15 歳未満：年少人口］

○1990 年から 2000 年にかけて一旦増加に転じたものの、2005 年以降は緩やかに減少に転じており、今後も、少しずつペースを速めながら減少を続けることが想定されています。



	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
総人口	52,312	69,511	77,137	78,435	76,960	87,599	97,571	108,039	116,696	123,079	127,042	129,223	130,316	130,632	130,235	129,055	127,038	124,175	120,384	115,947
15歳未満				20,261	16,424	14,980	15,841	17,689	18,875	18,544	18,373	17,762	16,803	15,713	15,249	14,952	14,430	13,685	12,908	12,251
15～64歳				54,217	55,753	66,316	74,203	80,071	83,626	85,749	87,009	87,549	87,952	86,185	82,216	76,967	73,577	70,837	68,151	65,565
65歳以上				3,776	4,633	5,713	7,423	10,204	14,042	17,593	21,660	23,912	25,560	28,734	32,769	37,136	39,032	39,653	39,325	38,131

※総人口は年齢不詳を含むため、年齢3区分の合計と一致しない場合がある。

（出典）実績値：総務省「国勢調査」、推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

図 3　年齢３区分別・人口数の推移（実績値、推計値）

イ．年齢３区分別・人口構成比率

［65 歳以上：老年人口］

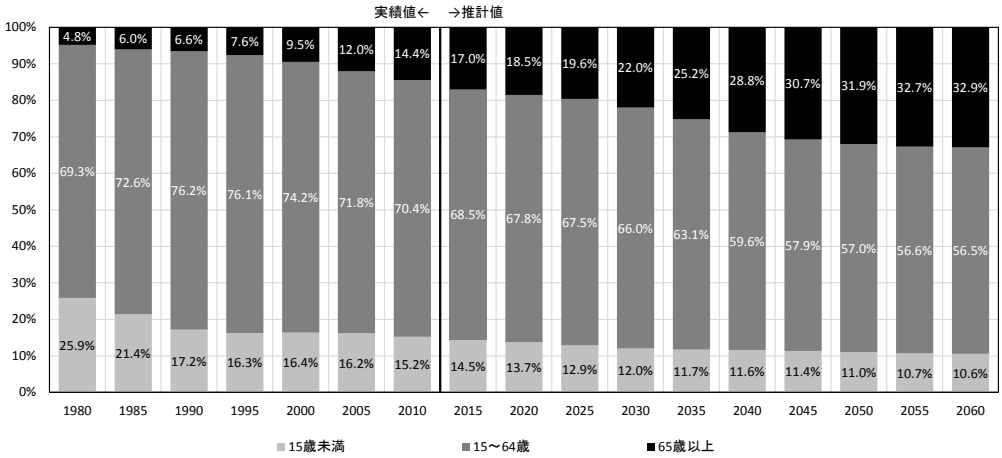
○老年人口の比率（＝高齢化率）は上昇のペースが速まっており、2010 年の約 15%から、2040 年には倍増の約 30%、2060 年には約 33%（3 人に 1 人）に達し、全国平均の約 40%（2060 年）は下回るものの、急速に高齢化が進行するものと見込まれています。

［15～64 歳：生産年齢人口］

○生産年齢人口の比率は、高齢化の進行に伴い減少が続き、2010 年の約 70%から、2040 年には 10 ポイント減の約 60%、2060 年には約 57%になると見込まれています。

［15 歳未満：年少人口］

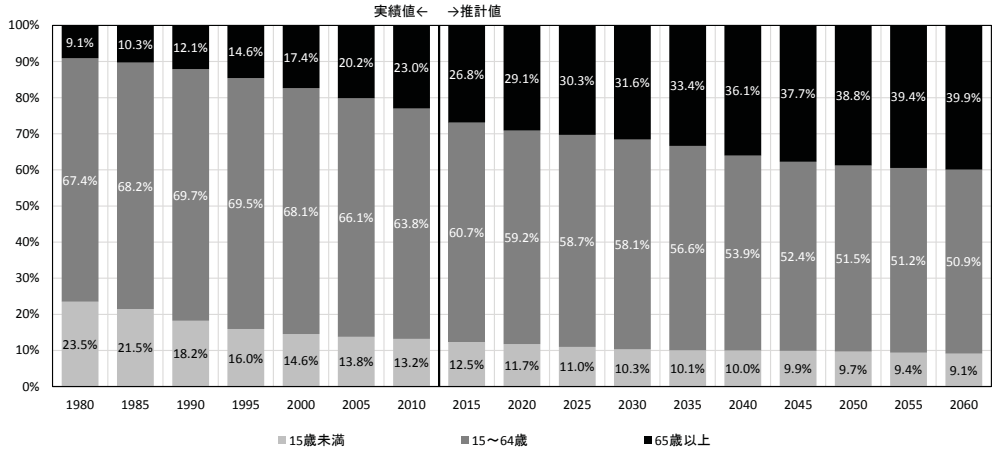
○年少人口の比率は、2010 年には 15%強と老年人口比率を若干、上回っていますが、今後も減少を続けて 2040 年には 12%弱となり、その後も緩やかに減少を続け、2060 年には 10%程度まで減少すると見込まれています。



※年齢不詳を除いて年齢3区分の比率を算出している。

（出典）実績値：総務省「国勢調査」、推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

図 4　年齢３区分別・人口構成比率の推移（実績値、推計値）［戸田市］



※年齢不詳を除いて年齢3区分の比率を算出している。

（出典）実績値：総務省「国勢調査」、推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

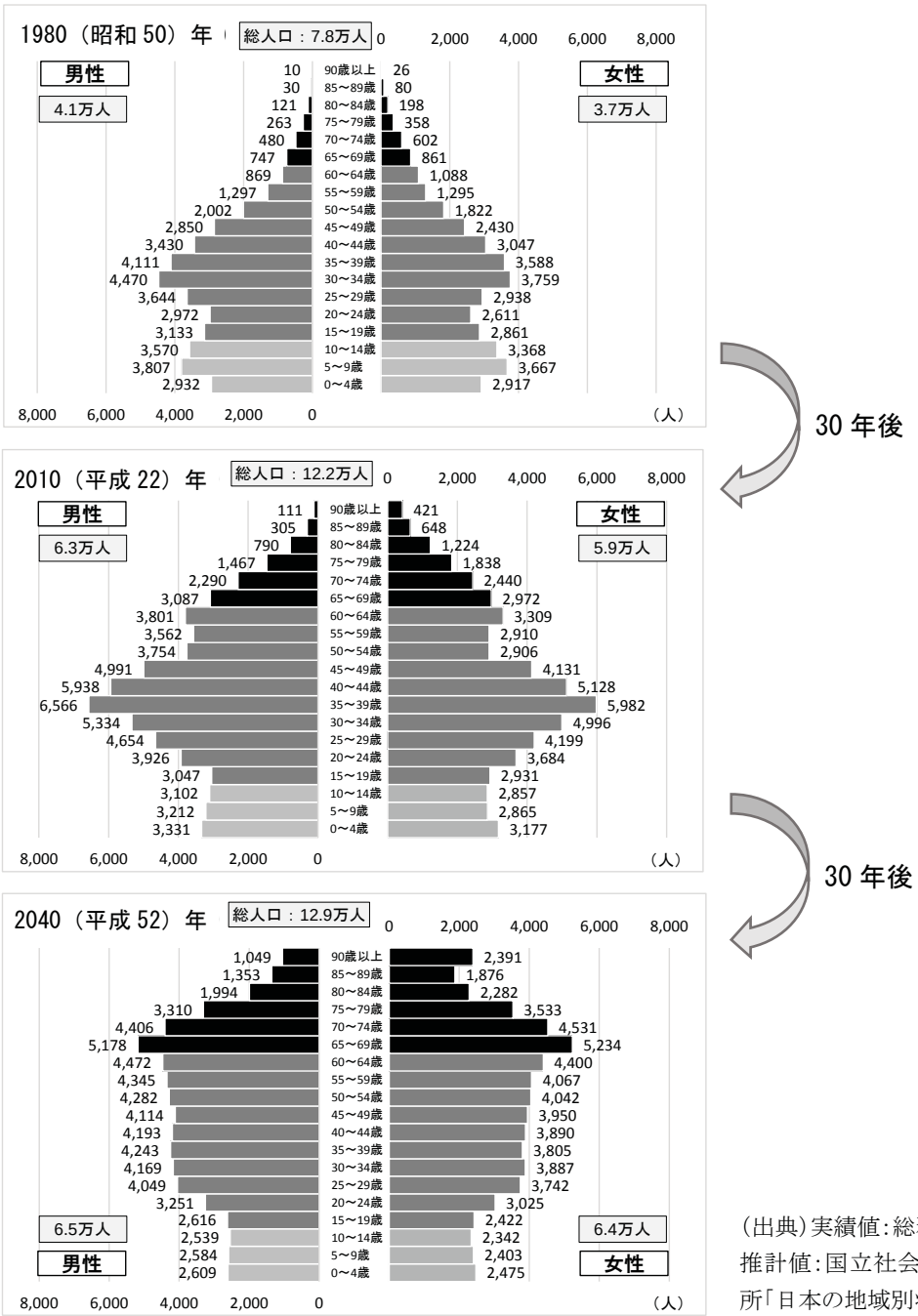
図 5　年齢３区分別・人口構成比率の推移（実績値、推計値）［全国］

ウ．年齢３区分別・人口ピラミッド

○1980 年には、30 代の団塊世代と 10 歳前後の団塊ジュニア世代の 2 つのピークがあり、それぞれの人数は同程度でした。

○2010 年には団塊世代が 60 歳前後になり高齢化が本格化する一方、40 歳前後の団塊ジュニア世代の人口が大幅に増加してピークを形成しています。年少人口は年齢階級による人口規模の差が小さく、概ね 3,000 人前後となっています。

○2040 年には、ピークとなる団塊ジュニア世代が 65 歳以上となり高齢化が一層進行する一方、少子化の影響により、25～64 歳は 4,000 人前後、20～24 歳は 3,000 人前後、0～19 歳は 2,500 人前後と年齢階級が下がるほど人口規模が減少し、人口構造の老年人口への偏りが強くなるものと見込まれます。



（出典）実績値：総務省「国勢調査」、推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

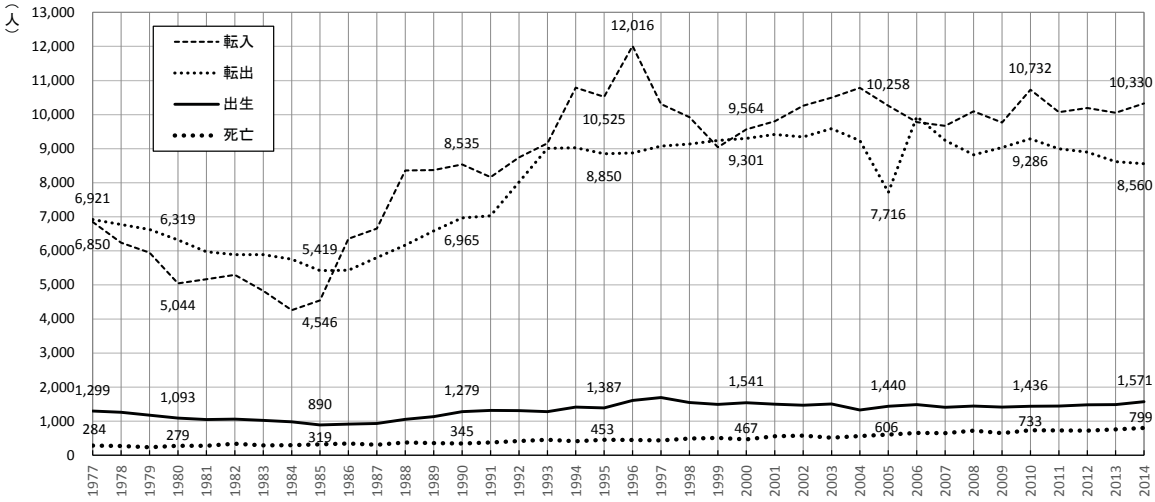
図 6　人口ピラミッドの推移（1980 年、2010 年、2040 年）

（3）出生・死亡、転入・転出の推移

○出生が 1,500 人前後、死亡が 1,000 人未満で推移する一方、転入・転出数は、1990 年代以降は 9,000 人から 10,000 人の水準で推移しており、出生・死亡による自然増減の影響に比べ、転入・転出に伴う社会増減の影響が相対的に大きくなっています。

○出生数は一貫して死亡数を上回る「自然増」の状況が続いています。

○転入・転出数は変動が大きく、両者がほぼ同数または転出が上回る年も見られますが、1985 年の埼京線開通以降は、概ね転入が転出を上回る社会増の状況が続いています。

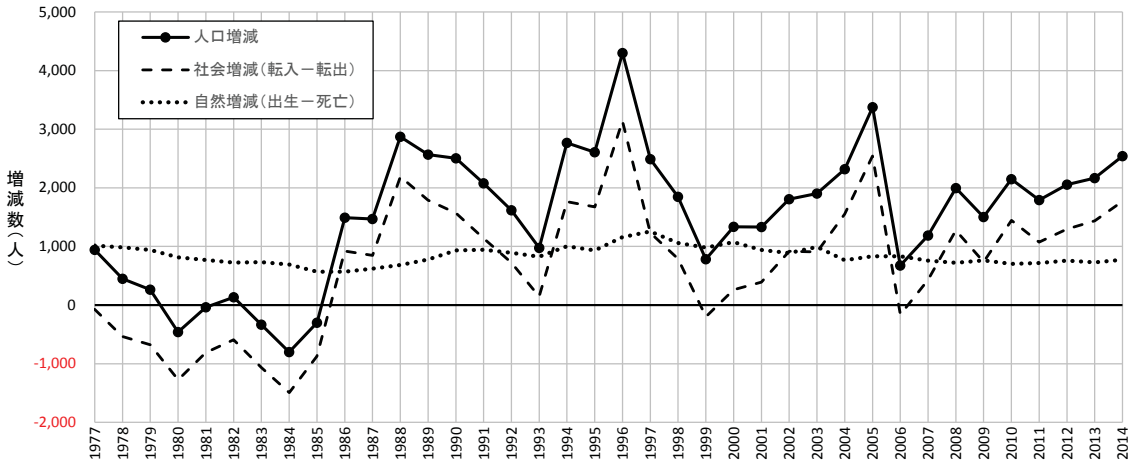


（出典）住民基本台帳による

図 7　出生・死亡数、転入・転出数の推移

（4）総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響

○1977 年以降は一貫して自然増で、概ね 700～1,000 人の水準で推移しています。一方、社会増減を見ると、1986 年以降は概ねプラスであるものの、5 年程度の周期で変動しており、ピーク時には 2,000～3,000 人、少ないときにはゼロからマイナスと変動幅が大きくなっており、総人口の増減も、概ね社会増減と同様の傾向を示しています。



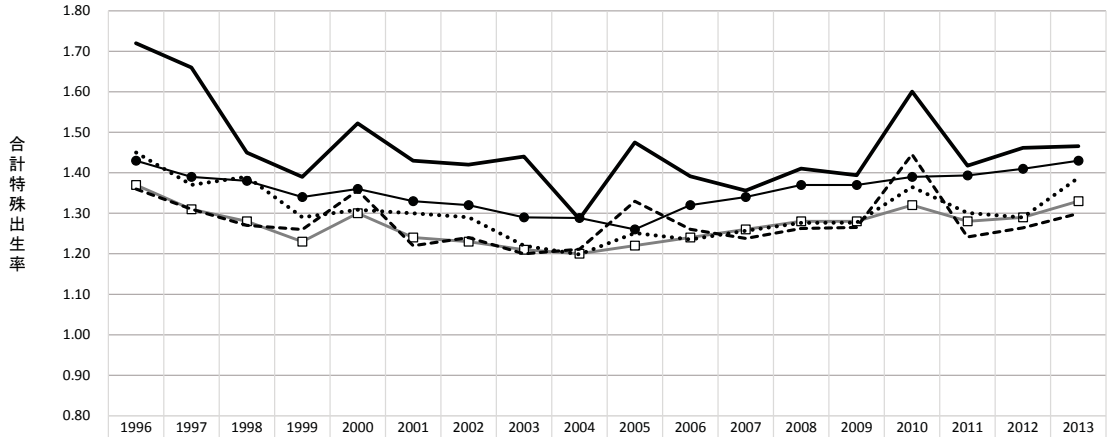
（出典）住民基本台帳による。 総人口は１月１日現在。

図 8　人口増減（自然増減、社会増減）の推移

2.　自然増減の状況

（1）合計特殊出生率と出生数の推移

○合計特殊出生率は、全国を上回る水準で推移しており、埼玉県及び川口保健所、朝霞保健所が管轄する自治体の平均と比べても高い水準にあります。

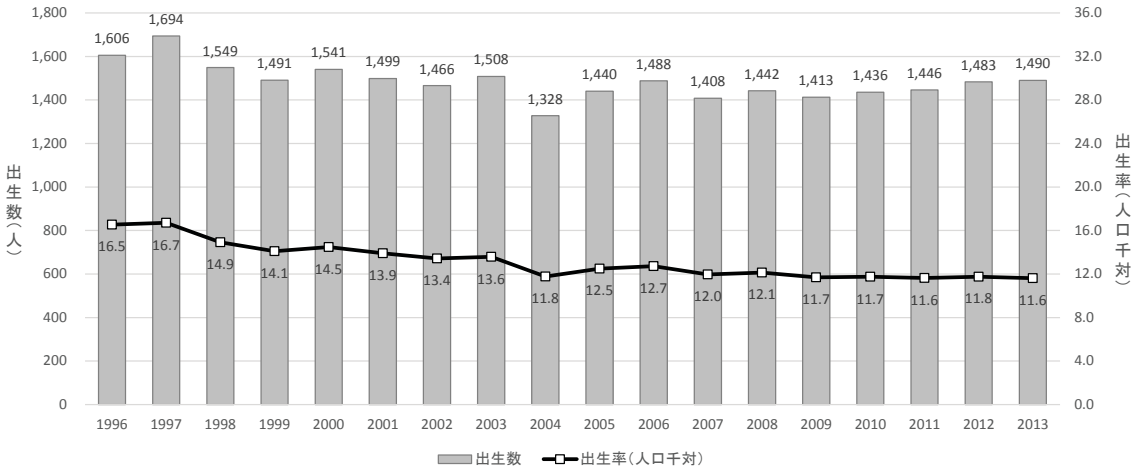


	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
全国	1.43	1.39	1.38	1.34	1.36	1.33	1.32	1.29	1.29	1.26	1.32	1.34	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43
埼玉県	1.37	1.31	1.28	1.23	1.30	1.24	1.23	1.21	1.20	1.22	1.24	1.26	1.28	1.28	1.32	1.28	1.29	1.33
戸田市	1.72	1.66	1.45	1.39	1.52	1.43	1.42	1.44	1.29	1.47	1.39	1.36	1.41	1.39	1.60	1.42	1.46	1.47
川口保健所	1.36	1.31	1.27	1.26	1.36	1.22	1.24	1.20	1.21	1.33	1.26	1.24	1.26	1.27	1.45	1.24	1.26	1.30
朝霞保健所	1.45	1.37	1.39	1.29	1.31	1.30	1.29	1.22	1.20	1.25	1.24	1.26	1.28	1.28	1.37	1.30	1.29	1.39

（出典）「埼玉県保健統計年報」

図 9　合計特殊出生率の推移

○出生数は 1,400 人以上で推移しています。ただし、人口千人あたりの出生率で見ると緩やかに低下を続けていることが分かります。

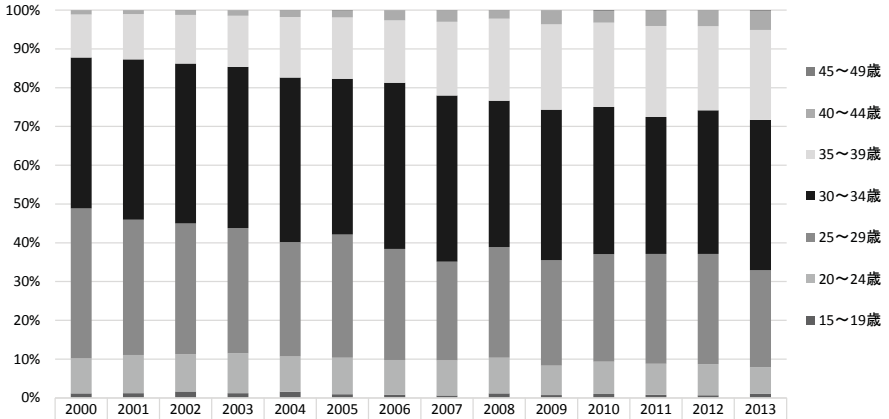


（出典）住民基本台帳による。

図 10　戸田市における出生数と出生率（人口千対）の推移

（2）女性の年齢と出生数

○母の年齢階級別・出生数の推移を見ると、30～34 歳が概ね約 40%で最大の割合を占め、概ね一定で推移しています。一方、25～29 歳と 35～39 歳については 2000 年と 2013 年の違いが大きく、前者は約 40%から 25%に減少、後者は約 10%から 25%に増加しています。



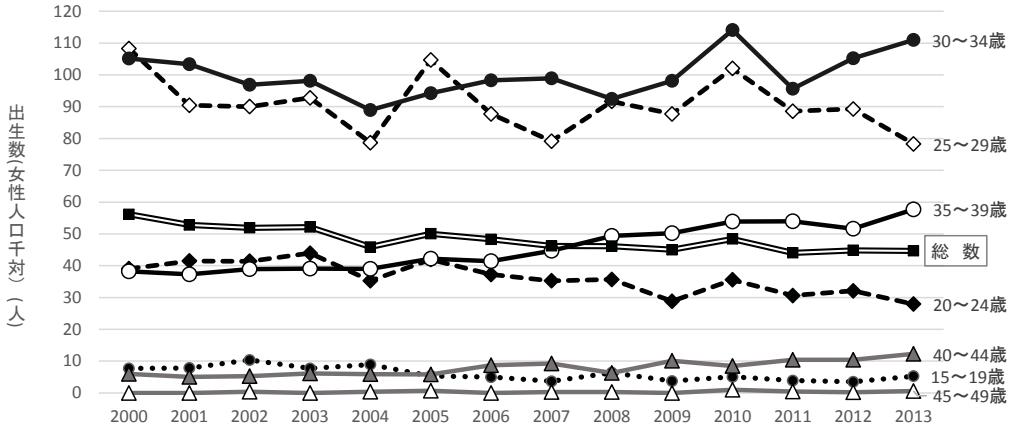
	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
45～49歳	0 人	0 人	1 人	0 人	1 人	2 人	0 人	1 人	1 人	0 人	4 人	2 人	1 人	3 人
40～44歳	17 人	15 人	17 人	21 人	22 人	24 人	38 人	41 人	30 人	51 人	41 人	55 人	59 人	72 人
35～39歳	168 人	171 人	182 人	196 人	206 人	223 人	232 人	264 人	296 人	307 人	305 人	330 人	314 人	342 人
30～34歳	590 人	606 人	599 人	615 人	558 人	566 人	618 人	595 人	529 人	541 人	532 人	496 人	536 人	571 人
25～29歳	585 人	512 人	490 人	479 人	388 人	447 人	413 人	354 人	400 人	379 人	389 人	398 人	412 人	369 人
20～24歳	137 人	144 人	140 人	152 人	120 人	133 人	129 人	125 人	129 人	106 人	117 人	113 人	116 人	100 人
15～19歳	18 人	18 人	24 人	18 人	21 人	13 人	12 人	9 人	16 人	10 人	14 人	11 人	10 人	16 人

（出典）「埼玉県保健統計年報」

図 11　戸田市における母の年齢階級別・出生数の推移

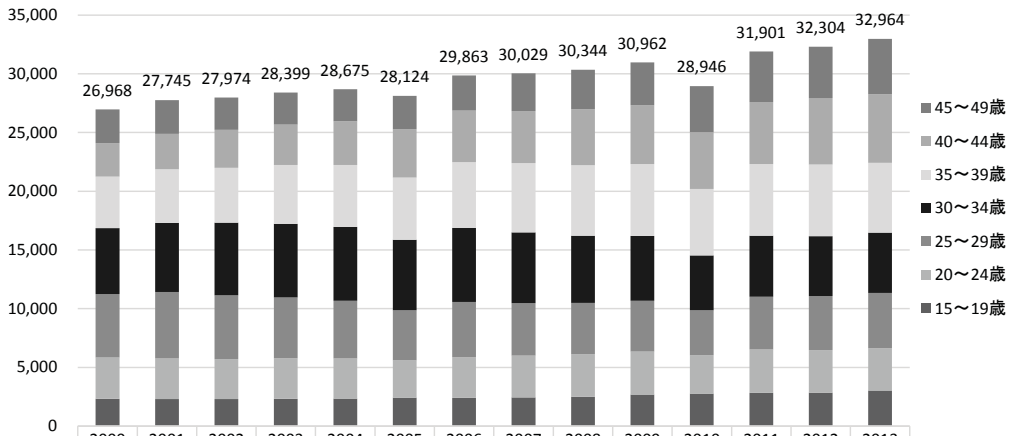
○出生数を年齢階層別の女性千人あたりに換算した数値で見ると、20～29 歳の階層は減少傾向にある一方、35～44 歳の階層は出生数が大きくなっており、晩産化の傾向がみられます。

○また、母数となる女性人口について、25～34 歳の人口は横ばいで、35 歳以上の人口が増加傾向にあることを勘案すると、今後も、35 歳以上で出産する女性の割合が増加するものと予想されます。



（出典）「埼玉県保健統計年報」

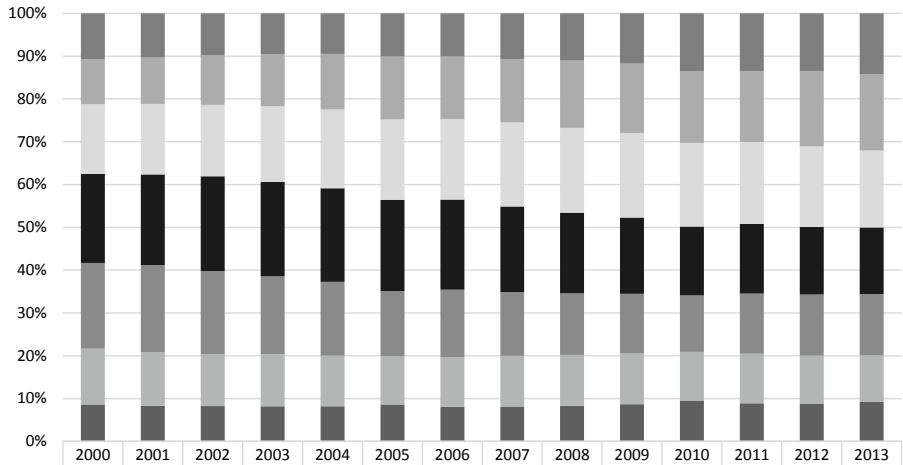
図 12　戸田市における母の年齢階級別・女性千人あたり出生数の推移



	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
総　数	26,968	27,745	27,974	28,399	28,675	28,124	29,863	30,029	30,344	30,962	28,946	31,901	32,304	32,964
45～49歳	2,875	2,870	2,742	2,727	2,723	2,831	3,004	3,195	3,348	3,626	3,921	4,307	4,373	4,701
40～44歳	2,842	2,996	3,237	3,437	3,714	4,132	4,382	4,445	4,779	5,027	4,834	5,270	5,663	5,853
35～39歳	4,396	4,581	4,675	5,012	5,278	5,282	5,605	5,902	5,999	6,116	5,661	6,114	6,086	5,926
30～34歳	5,612	5,865	6,180	6,269	6,274	6,006	6,288	6,016	5,722	5,511	4,663	5,187	5,095	5,143
25～29歳	5,403	5,662	5,444	5,162	4,931	4,270	4,709	4,472	4,364	4,321	3,813	4,494	4,614	4,713
20～24歳	3,505	3,471	3,380	3,460	3,402	3,169	3,465	3,546	3,614	3,676	3,290	3,691	3,612	3,582
15～19歳	2,335	2,300	2,316	2,332	2,353	2,434	2,410	2,453	2,518	2,685	2,764	2,838	2,861	3,046

※2000 年、2005 年、2010 年については「国勢調査人口」を用い、他の年は、「1 月 1 日現在町（丁）字別人口（総人口）」（埼玉県総務部統計課）を用いている。
（出典）「埼玉県保健統計年報」

図 13　戸田市における年齢階級別・女性人口数の推移



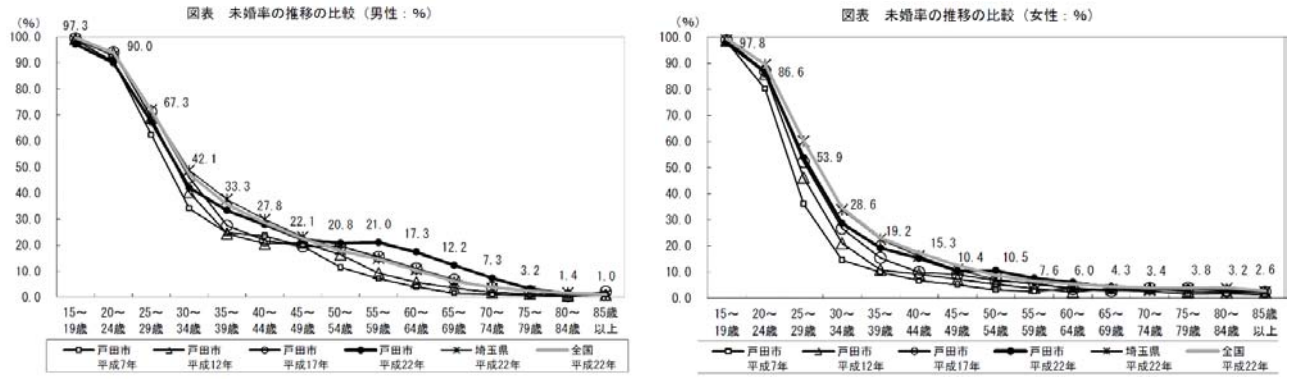
	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
45～49歳	10.7%	10.3%	9.8%	9.6%	9.5%	10.1%	10.1%	10.6%	11.0%	11.7%	13.5%	13.5%	13.5%	14.3%
40～44歳	10.5%	10.8%	11.6%	12.1%	13.0%	14.7%	14.7%	14.8%	15.7%	16.2%	16.7%	16.5%	17.5%	17.8%
35～39歳	16.3%	16.5%	16.7%	17.6%	18.4%	18.8%	18.8%	19.7%	19.8%	19.8%	19.6%	19.2%	18.8%	18.0%
30～34歳	20.8%	21.1%	22.1%	22.1%	21.9%	21.4%	21.1%	20.0%	18.9%	17.8%	16.1%	16.3%	15.8%	15.6%
25～29歳	20.0%	20.4%	19.5%	18.2%	17.2%	15.2%	15.8%	14.9%	14.4%	14.0%	13.2%	14.1%	14.3%	14.3%
20～24歳	13.0%	12.5%	12.1%	12.2%	11.9%	11.3%	11.6%	11.8%	11.9%	11.9%	11.4%	11.6%	11.2%	10.9%
15～19歳	8.7%	8.3%	8.3%	8.2%	8.2%	8.7%	8.1%	8.2%	8.3%	8.7%	9.5%	8.9%	8.9%	9.2%

※2000 年、2005 年、2010 年については「国勢調査人口」を用い、他の年は、「1 月 1 日現在町（丁）字別人口（総人口）」（埼玉県総務部統計課）を用いている。
（出典）「埼玉県保健統計年報」

図 14　戸田市における年齢階級別・女性人口（割合）の推移

（3）結婚に関する意識

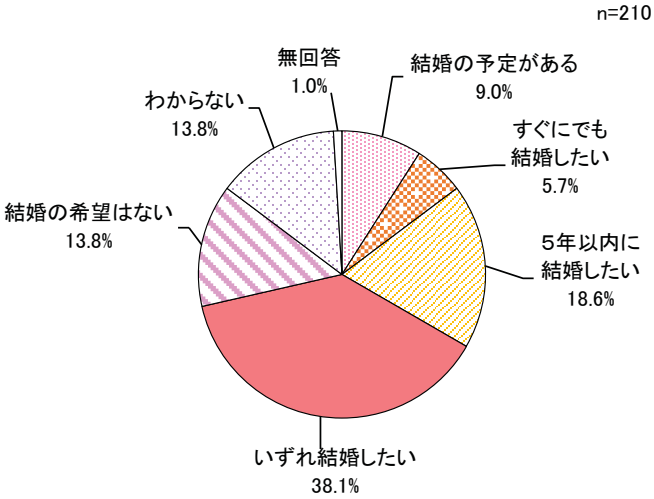
○2010（平成 22）年時点の男性の未婚率は、25～29 歳が 67.3%、30～34 歳が 42.1%、35～39 歳では 33.3%となっており、3 人に 1 人が未婚者となっていますが、県及び全国の水準は下回っています。同じく、女性の未婚率は、25～29 歳で 53.9%、30～34 歳で 28.6%、35～39 歳が 19.2%といずれも、県及び全国を下回っていますが、男女共に 1995（平成 7）年からの推移を見ると晩婚化が進行していることがうかがえます。



（出典）「戸田市子ども・子育て支援事業計画」（資料：国勢調査）

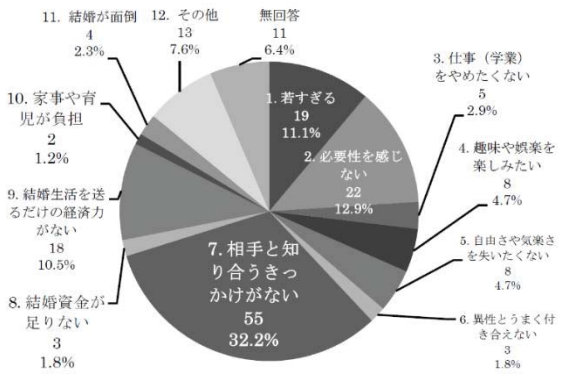
図 15　未婚率の推移の比較

○独身の 7 割以上が、結婚の予定または希望をもっています。結婚の希望をもたない人は、約 14%となっています。4 人に 1 人が 5 年以内の結婚を望んでいます。独身の理由としては、「相手と知り合うきっかけがない」が最も多く、次いで「必要性を感じない」「若すぎる」「経済力がない」となっています。



（出典）「戸田市人口減少問題に関する若年層アンケート」

図 16　結婚の予定・希望



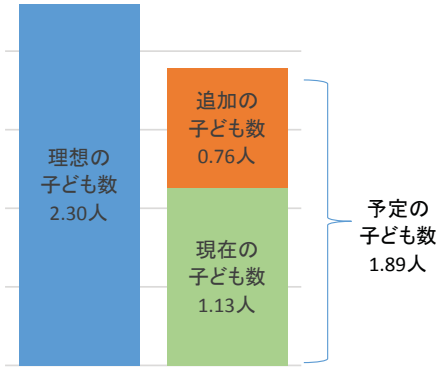
（出典）「戸田市若年世帯意識調査」

図 17　独身でいる理由について

（4）出産に関する意識

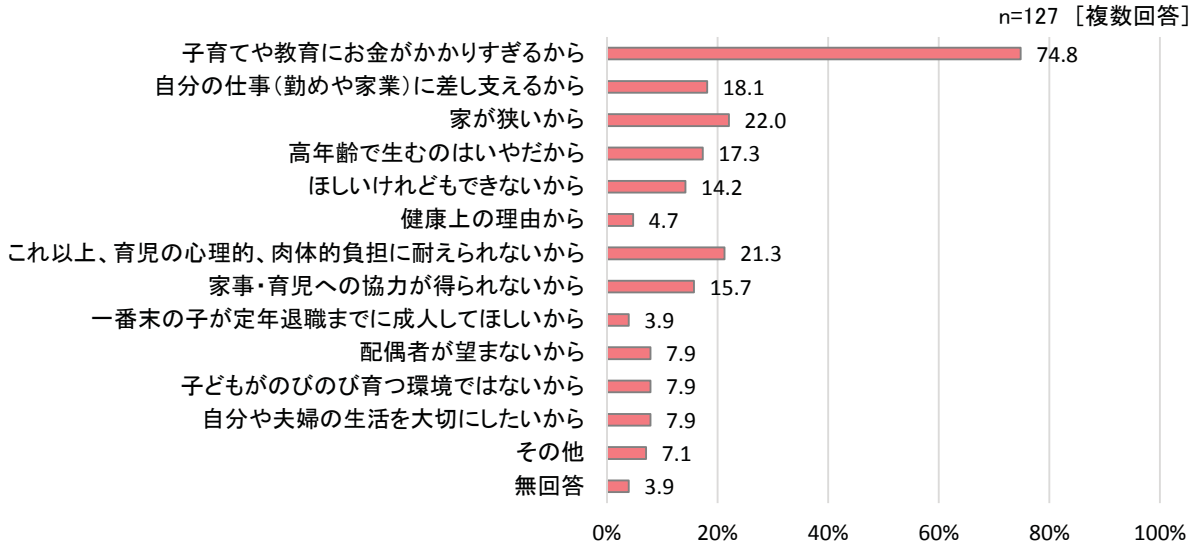
○「戸田市人口減少問題にかかる若年層アンケート」によると、若年既婚者の「理想の子ども数」の平均は 2.30 人、「予定の子ども数」の平均は 1.89 人で、0.41 人の開きがあります。理想の子どもの数がもてない現状があります。

○理想が実現できそうもない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も多く 7 割を超えます。「家が狭いから」「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」もそれぞれ 2 割前後の人が選択しており、経済的理由を挙げる人が多くなっています。その他では、「これ以上育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」、「高年齢で生むのはいやだから」が多くなっています。



（出典）「戸田市人口減少問題に関する若年層アンケート」

図 18　既婚者の現在、理想、予定の子ども数の平均



（出典）「戸田市人口減少問題に関する若年層アンケート」

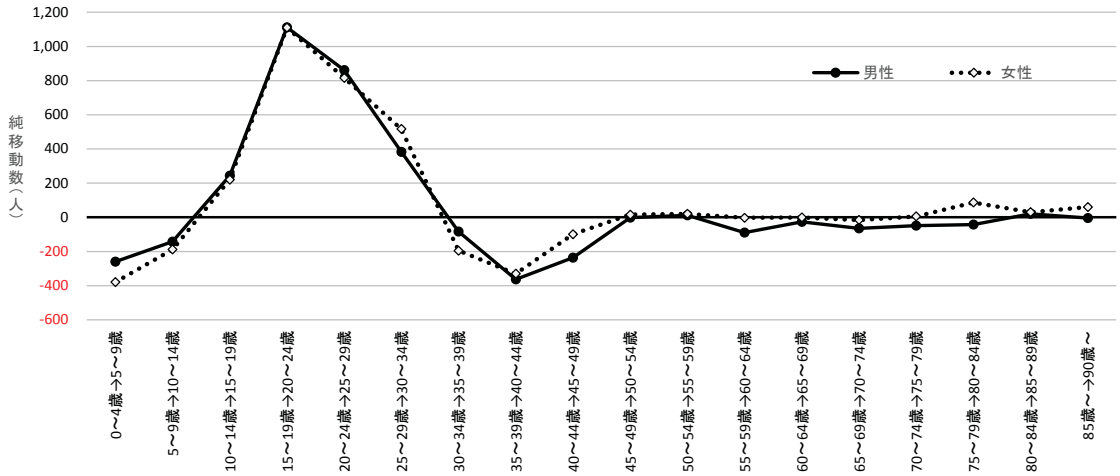
図 19　既婚者の「予定の子ども数」が「理想の子ども数」よりも少ない理由

3.　社会増減の状況

（1）人口移動の推移

ア．最近の状況（2005 年⇒2010 年）

○男性と女性はほぼ同様の傾向を示しており、「15～19 歳→20～24 歳」から「25～29 歳→30～34 歳」にかけての 3 つの年齢階級はいずれも純移動がプラスであり、高等教育機関への進学や卒業後の就職、結婚や住宅購入などのイベントが、転入の大きな要因になっていると推察されます。



（出典）まち・ひと・しごと創生本部作成 ［※総務省「国勢調査」における人口データ及び住民基本台帳人口移動報告」における出生・死亡に関するデータに基づき算出］

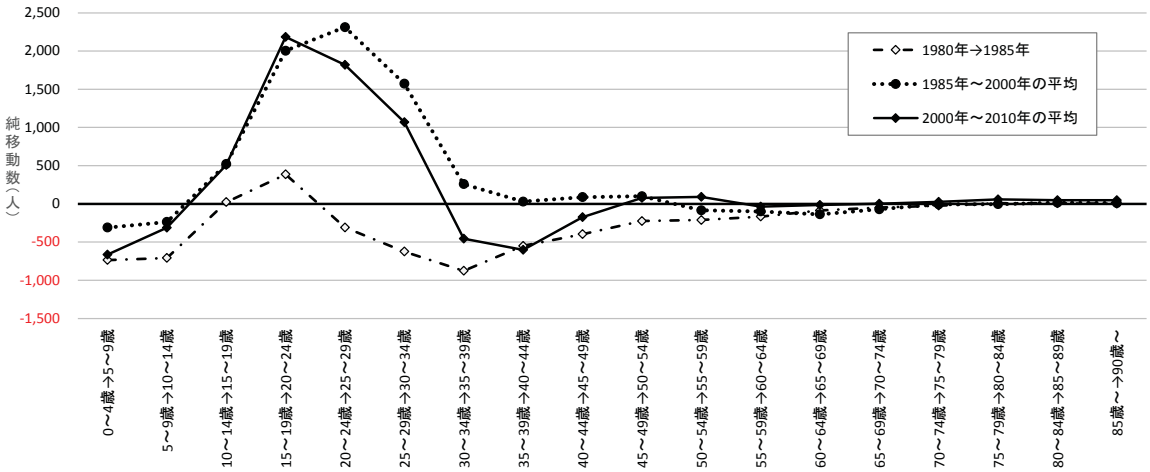
図 20　近年の年齢階級別人口移動の推移（2005 年→2010 年）

イ．長期的な動向（1980 年～2010 年）

① 総数

○1985 年の埼京線開通以降、東京都心のベッドタウンとして、20 代前半から 30 代前半の世代が大幅に転入超過となる傾向が続いています。ただし、1985 年以降について見ると、20 代後半から 40 代にかけての純移動数が全般に減少する傾向がみられます。

○グラフの特徴から、1985 年以降の期間を 2000 年前後で区別して平均値を比較すると、20 代後半から 30 代前半の転入超過が縮小しているほか、30 代後半から 40 代にかけては転入出が概ね均衡した状況から転出超過に転じています。

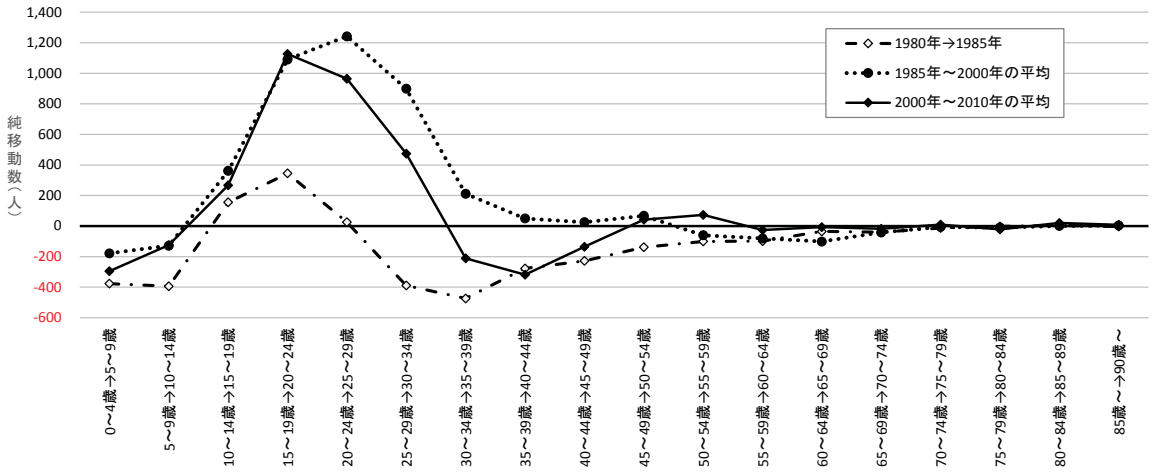


（出典）まち・ひと・しごと創生本部作成 ［※総務省「国勢調査」における人口データ及び住民基本台帳人口移動報告」における出生・死亡に関するデータに基づき算出］

図 21　年齢階級別に見た人口移動の推移（総数）［期間ごとの平均値］

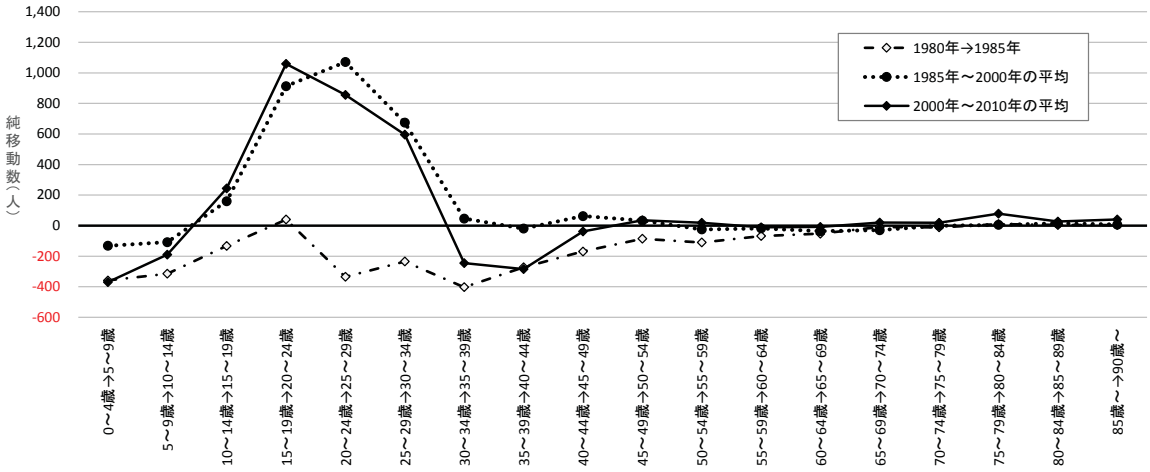
② 男女別の動向

○男女共に、総数とほぼ同様の傾向を示しています。女性では、20 代後半から 30 代前半にかけての転入超過の落ち込みは小さくなっています。



（出典）まち・ひと・しごと創生本部作成 ［※総務省「国勢調査」における人口データ及び住民基本台帳人口移動報告」における出生・死亡に関するデータに基づき算出］

図 22　年齢階級別に見た人口移動の推移［期間ごとの平均値］（男性）



（出典）まち・ひと・しごと創生本部作成 ［※総務省「国勢調査」における人口データ及び住民基本台帳人口移動報告」における出生・死亡に関するデータに基づき算出］

図 23　年齢階級別に見た人口移動の推移（女性）［期間ごとの平均値］

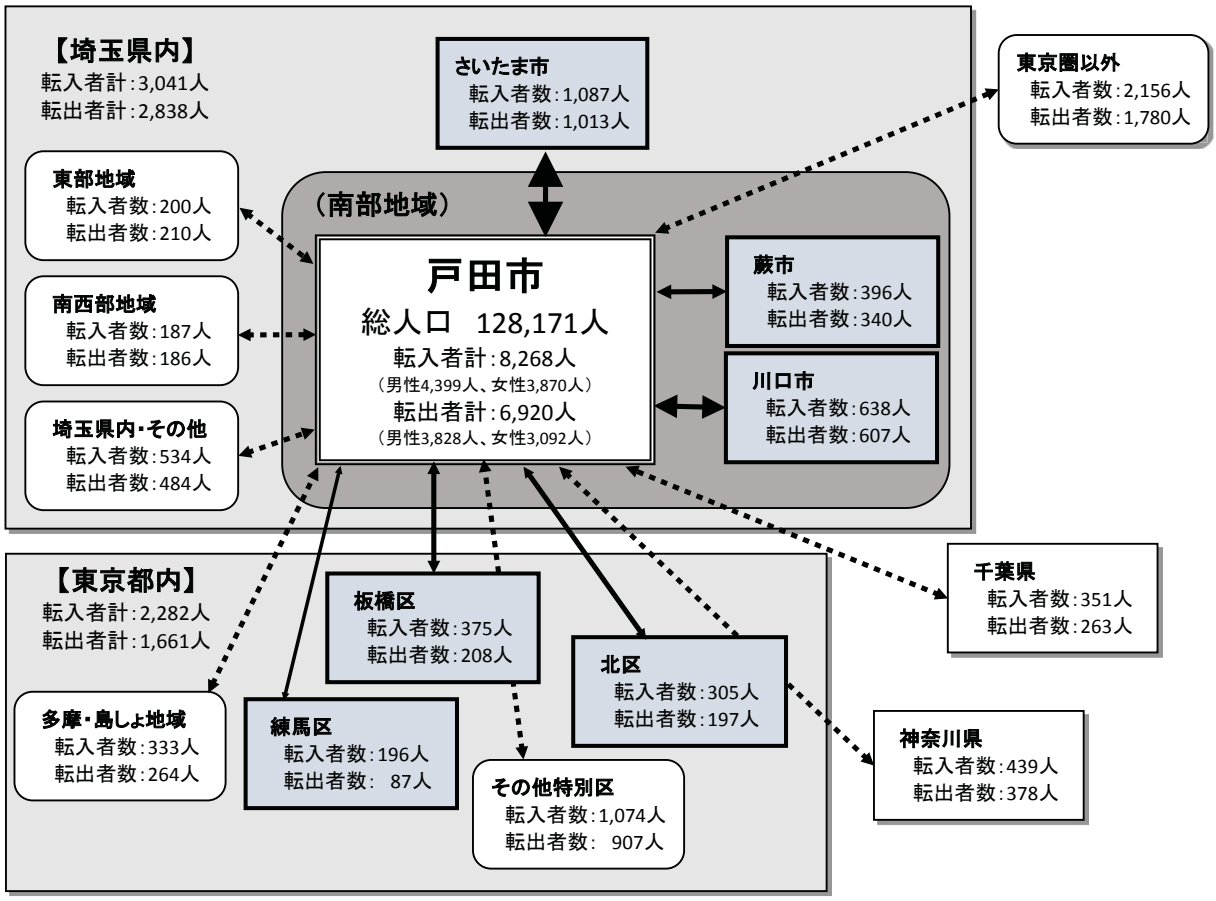
（2）地域別の人口移動の状況

ア．全体の傾向

○転入・転出共に隣接するさいたま市、川口市、蕨市との相互移動が多く、東京都内では板橋区、北区、練馬区からの転入が多くなっています。

○埼玉県内を地域で分けて見ると、戸田市を含む南部地域に隣接する、東部地域及び南西部地域についても相互移動が多くなっています。

○なお、転入・転出の男女別内訳を見ると、いずれも男性が女性を上回り、転入で 530 人、転出で 740 人程度の違いがあります。



■各地域に該当する自治体
【埼玉県内】
南西部地域：朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、三芳町
東部地域：春日部市、草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町

※総人口は、2013年1月1日現在。
※外国人は含まれていません。
※端数処理をしているため、各地域や男女の転入者数・転出者数を合計しても、転入者計・転出者計と合わない場合があります。

（出典）総務省「住民基本台帳人口移動報告」

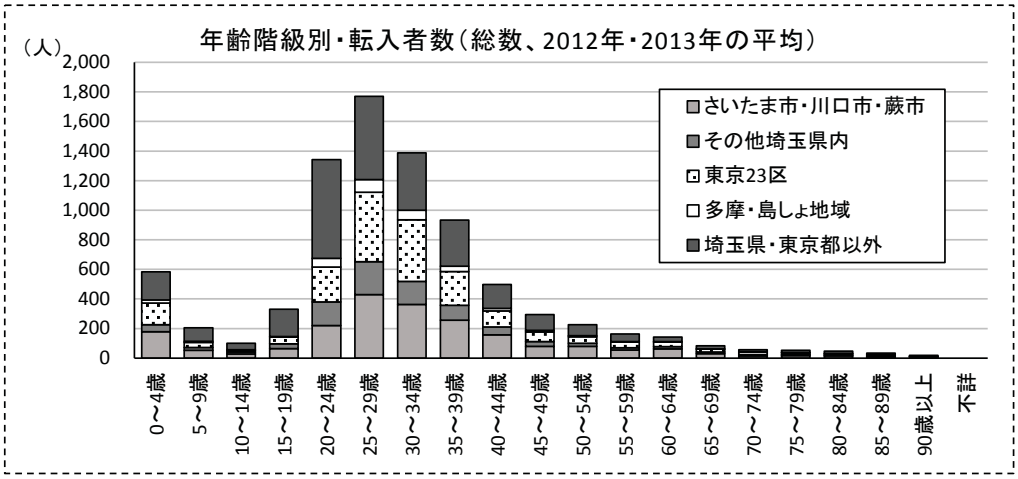
図 24　地域別に見た転入・転出の状況（2012 年及び 2013 年の平均値）

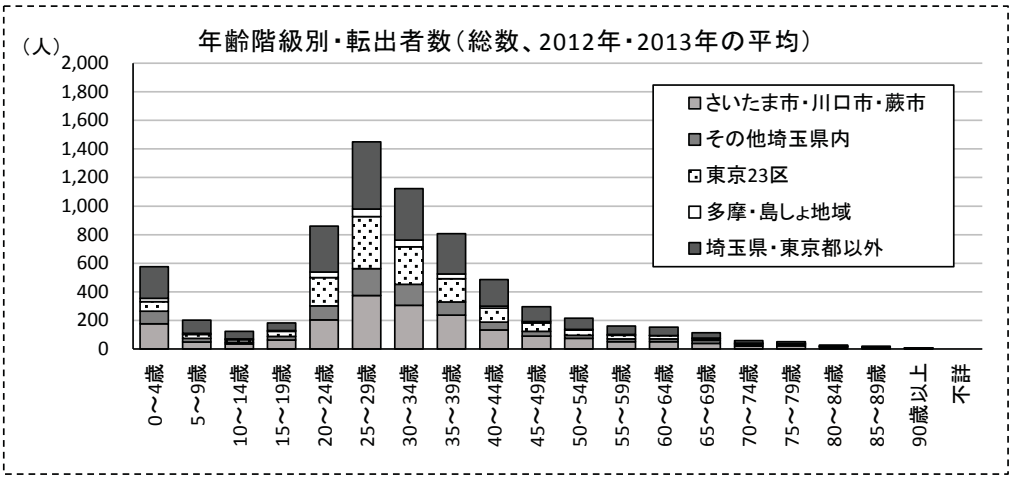
イ．年齢階級別の傾向

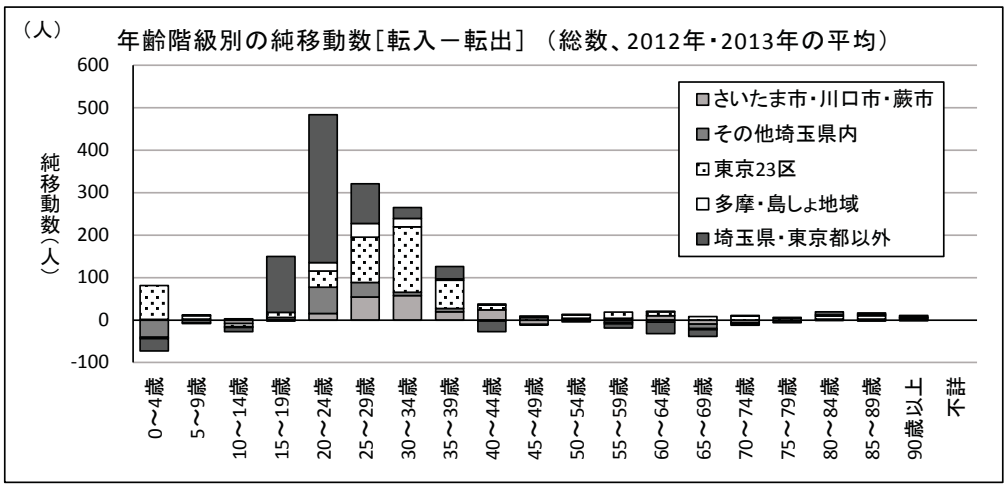
① 総数

○20 代、30 代で移動が多く、特に 20 代では大幅な転入超過となっています。

○15 歳から 24 歳で「埼玉県・東京都以外」からの転入超過が大きくなっています。また、4 歳以下、25 歳から 39 歳で、「東京 23 区」からの転入超過が大きく、ファミリー層の移動が多いと推察されます。







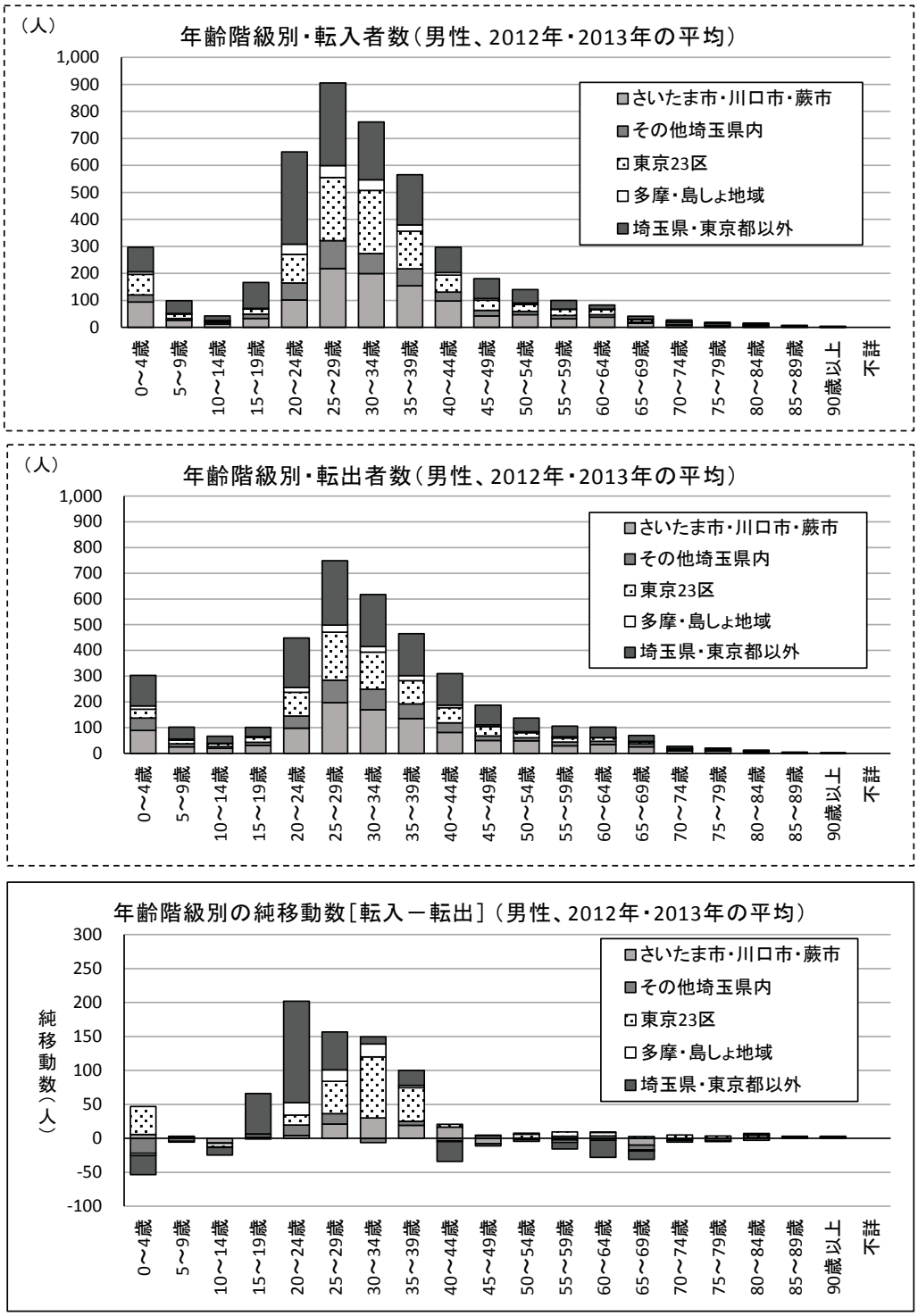
（出典）総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図 25　年齢階級別・地域別に見た転入・転出の状況

② 男女別

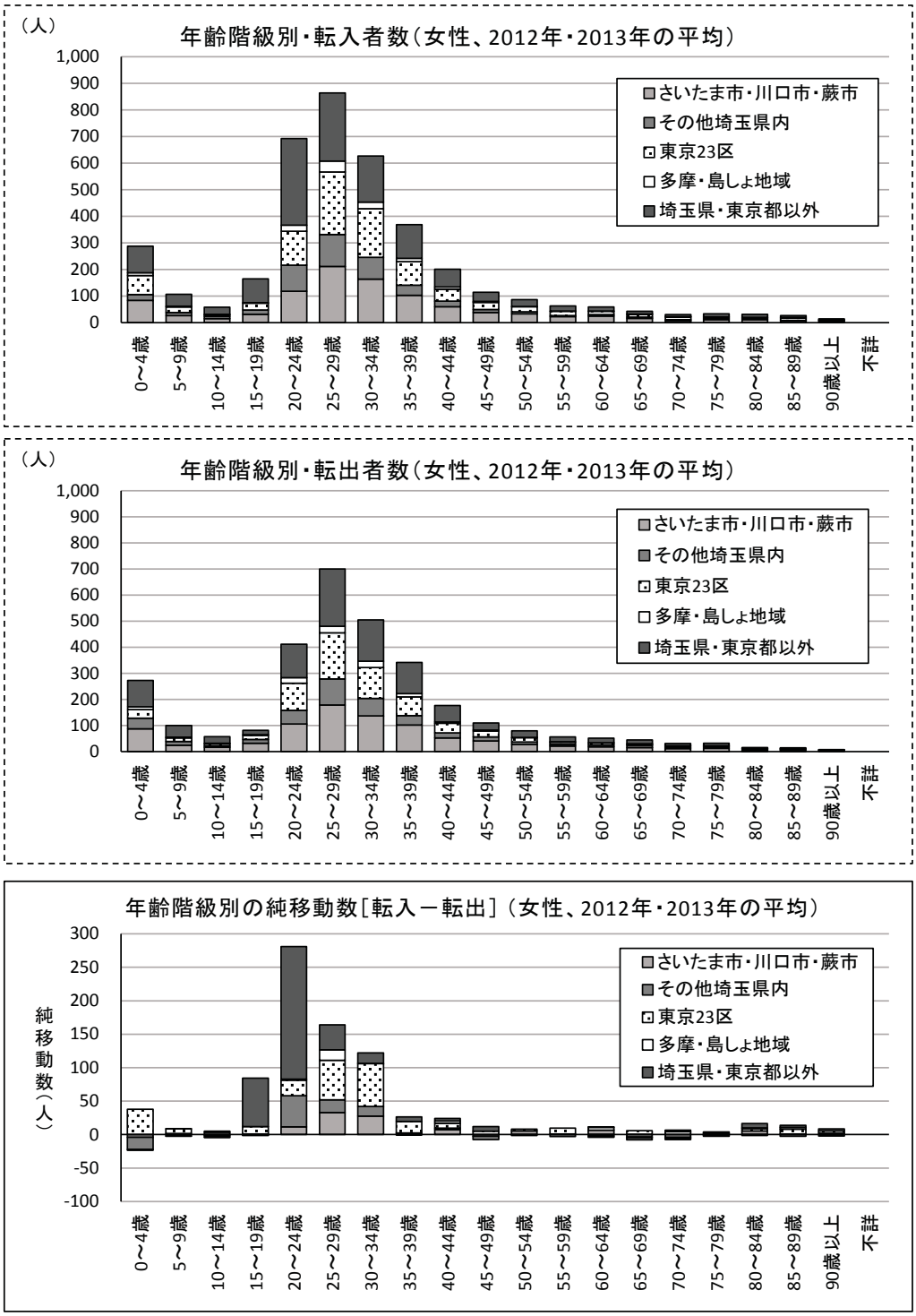
○転入・転出者数について見ると、いずれにおいても、男性のほうが女性よりも 30 代から 40 代前半にかけての年齢階級における移動数が大きくなっています。

○純移動数について見ると、男性より女性のほうが、20 代前半の転入超過が大きく、特に、「埼玉県・東京都以外」との移動が影響していると考えられます。逆に、30 代については女性よりも男性の転入超過が大きく、特に、「東京 23 区」との移動による影響が大きくなっています。



（出典）総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図 26　男女別・年齢階級別・地域別に見た転入・転出の状況（男性）



（出典）総務省「住民基本台帳人口移動報告」

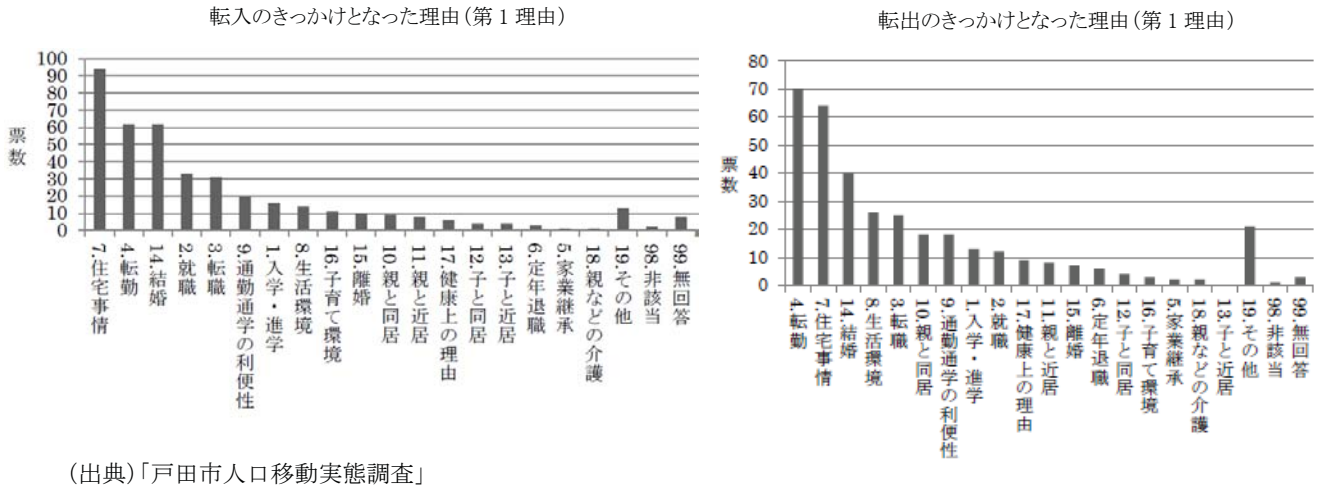
図 27　男女別・年齢階級別・地域別に見た転入・転出の状況（女性）

（3）移動の理由と定住意向

○転入のきっかけは、「住宅事情」が最も多く、「転勤」「結婚」「就職」などが続きます。転出のきっかけは「転勤」「住宅事情」「結婚」などが多くなっています。また、戸田市を選択した理由を見ると、通勤・通学や日常生活に便利なまちとして評価されていることがわかります。

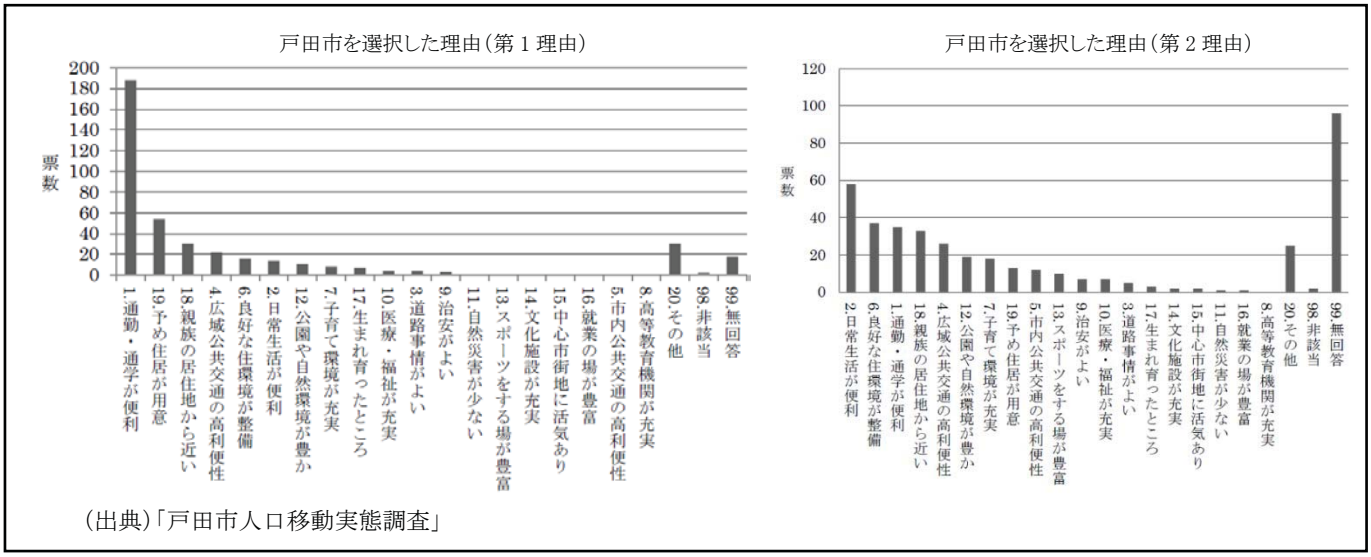
○「結婚」をきっかけとした移動は「25～29 歳」が約半数を占め、次いで「30～34 歳」が多くなっています。住宅事情では「25～29 歳」、「30～34 歳」が多く、転勤では「25～29 歳」が多くなっています。「通勤・通学の利便性」を挙げている人は 20 代が多くなっています。

○市民全体の定住意向は 7 割を超える高い水準となっていますが、移転希望も約 1 割います。20 代の定住意向は約 5 割となっています。比較的短い居住期間で転出する人が多いのも特徴です。



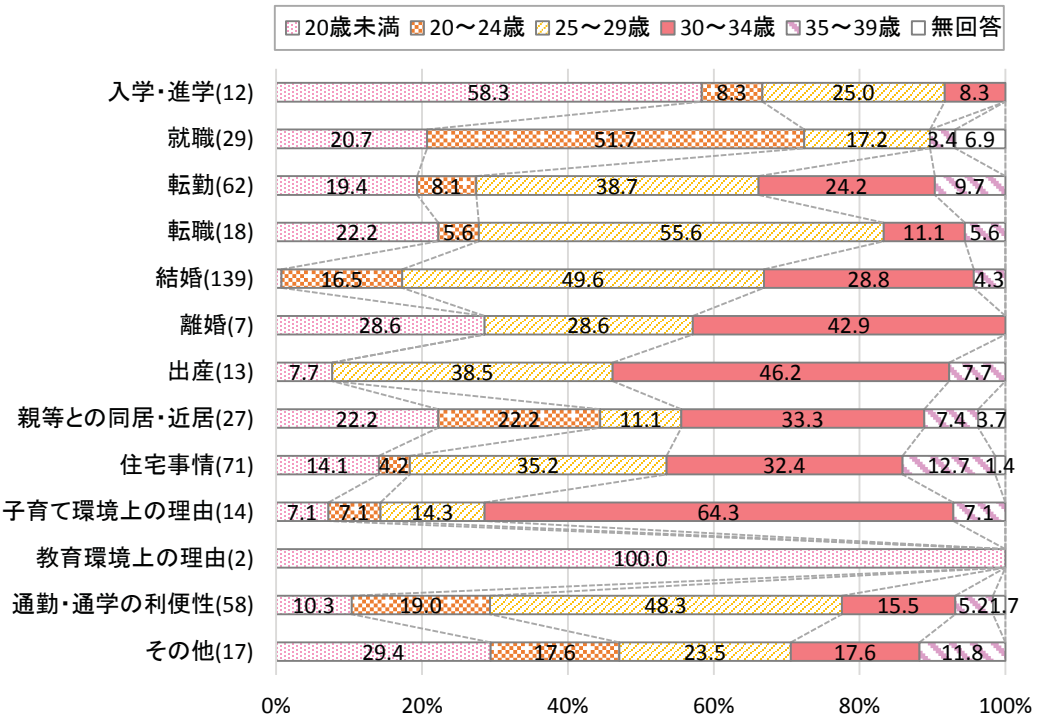
（出典）「戸田市人口移動実態調査」

図 28　転入・転出のきっかけ



（出典）「戸田市人口移動実態調査」

図 29　戸田市を選択した理由（転入者）



（出典）「戸田市人口減少問題に関する若年層アンケート」

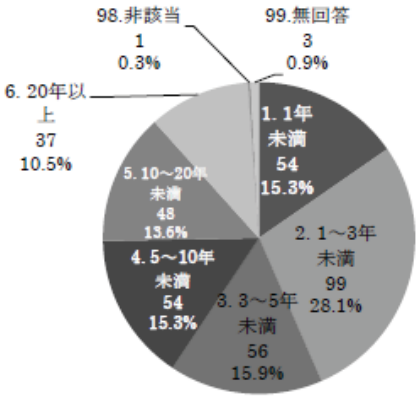
図 30　「転入のきっかけ」と「転入時の年齢」の関係

表 1　定住意向

図表 30　戸田市に住み続けたいか（全体・性別・年齢別・居住地区別）

		住み続ける	たぶん住み続ける	たぶん移転する	移転する	わからない	無回答
全体（1,317）		33.4	42.8	7.2	2.4	14.1	0.1
性別	男性（562）	33.1	43.1	8.0	3.4	12.5	0.0
	女性（755）	33.6	42.6	6.6	1.6	15.4	0.1
年齢別	16～19歳（32）	9.4	37.5	28.1	3.1	21.9	0.0
	20～29歳（129）	17.1	34.9	23.3	5.4	19.4	0.0
	30～39歳（262）	22.5	45.8	9.5	4.6	17.6	0.0
	40～49歳（278）	30.6	51.8	5.0	1.1	11.5	0.0
	50～59歳（192）	29.2	48.4	4.2	2.6	15.6	0.0
	60～69歳（202）	38.6	39.6	3.5	1.5	16.8	0.0
	70歳以上（222）	61.7	31.5	0.9	0.0	5.4	0.5

（出典）「戸田市市民意識調査報告書（平成 26 年度実施）」



（出典）「戸田市人口移動実態調査」

図 31　戸田市での居住期間

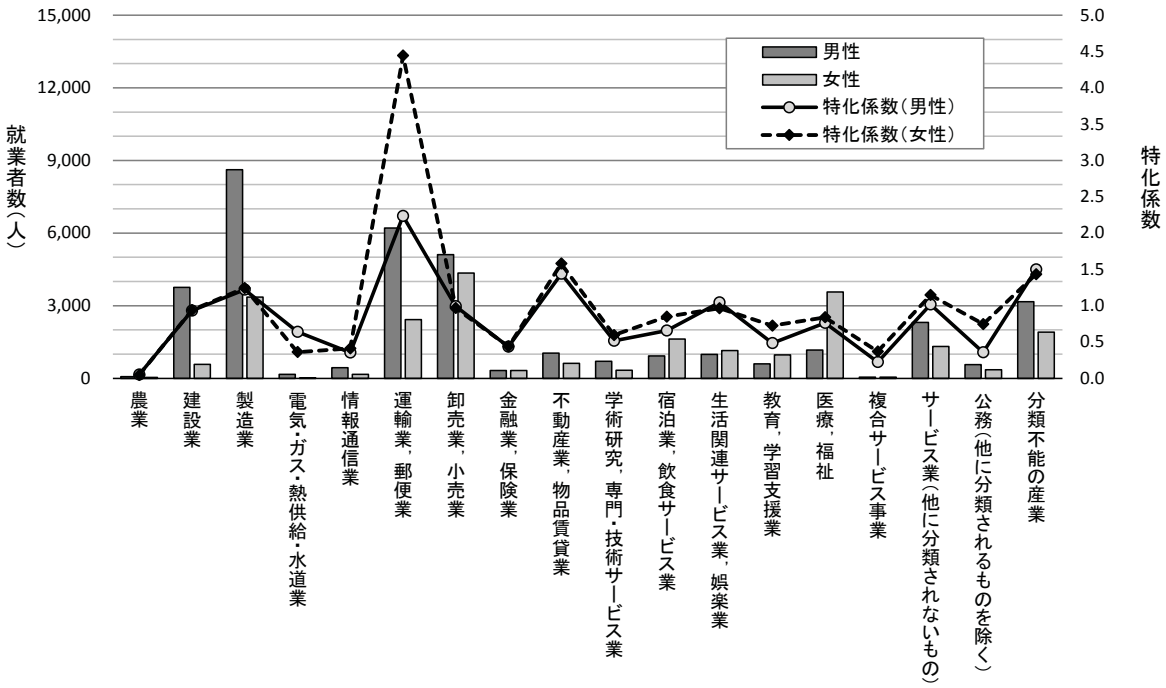
4.　雇用・就業の状況

（1）就業者数の状況

ア．市内の就業者数

○就業者の多い産業として、男性は「製造業」、「運輸業、郵便業」、「卸売業、小売業」があり、女性は「製造業」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」が挙げられます。

○特化係数については、運輸業・郵便業が突出しています。他の産業については、特化係数が 1.0 に満たないものも多く、全国平均と比べ、相対的に製造業と運輸業・郵便業、不動産業・物品賃貸業の就業者が多い点が特徴といえます。



※男女合計の就業者数が 100 人未満の林業、漁業は表示していない

※産業別特化係数…産業別の就業者比率を全国平均と比較したものであり、次式により算出する。

X 産業の特化係数＝本町の X 産業の就業者比率／全国の X 産業の就業者比率

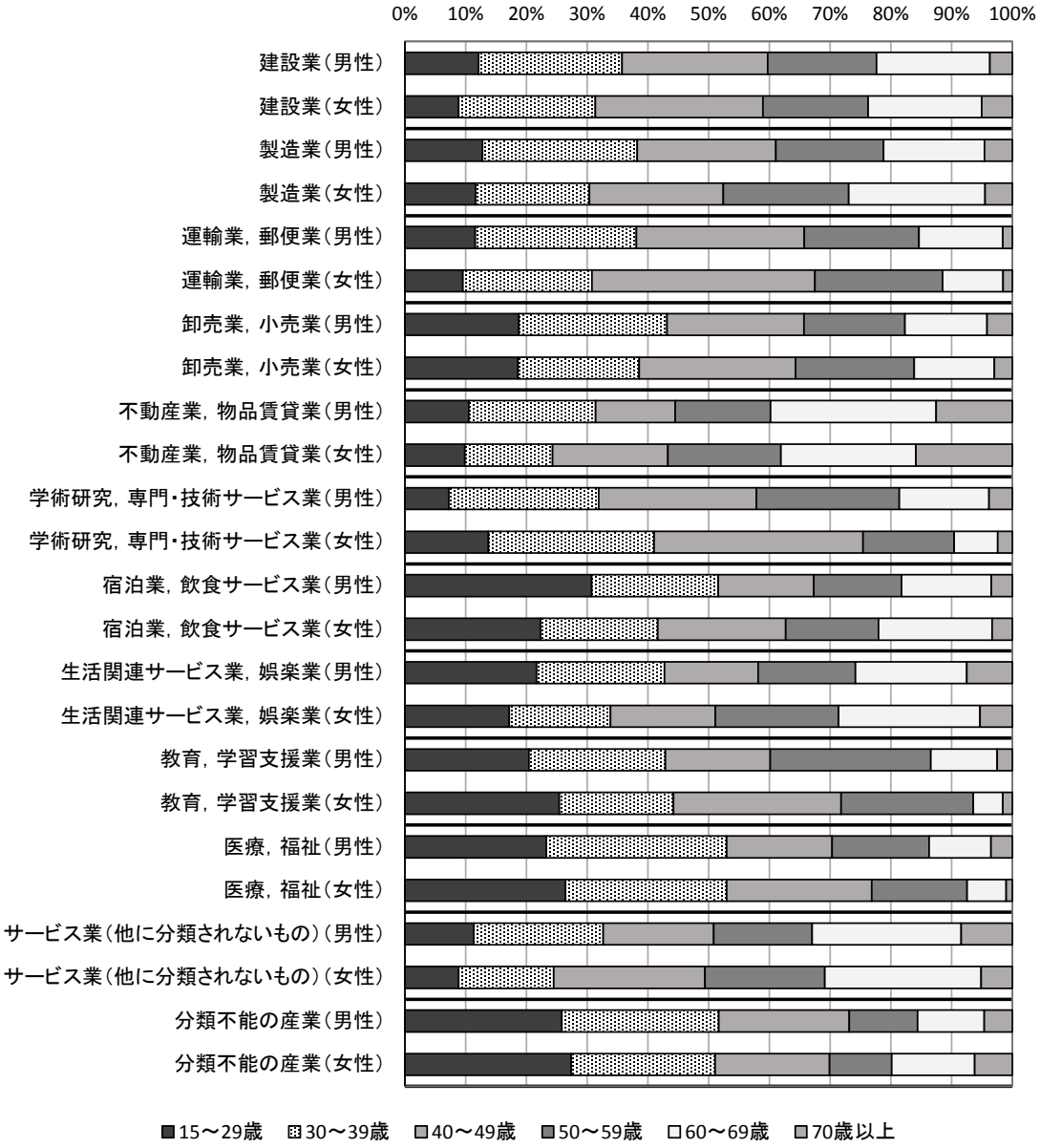
（出典）総務省「国勢調査」（2010 年）

図 32　男女別・産業別就業者数、産業別特化係数

イ．市内就業者の年齢構成

○就業者の多い「製造業」、「運輸業、郵便業」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」について年齢構成を見てみると、「製造業」では 60 代が、「運輸業、郵便業」では 30 代、40 代が比較的多くなっています。「卸売業、小売業」は偏りが少なくなっています。また、「医療、福祉」は 15 歳から 39 歳が過半数を占め、若い就業者が多くなっています。

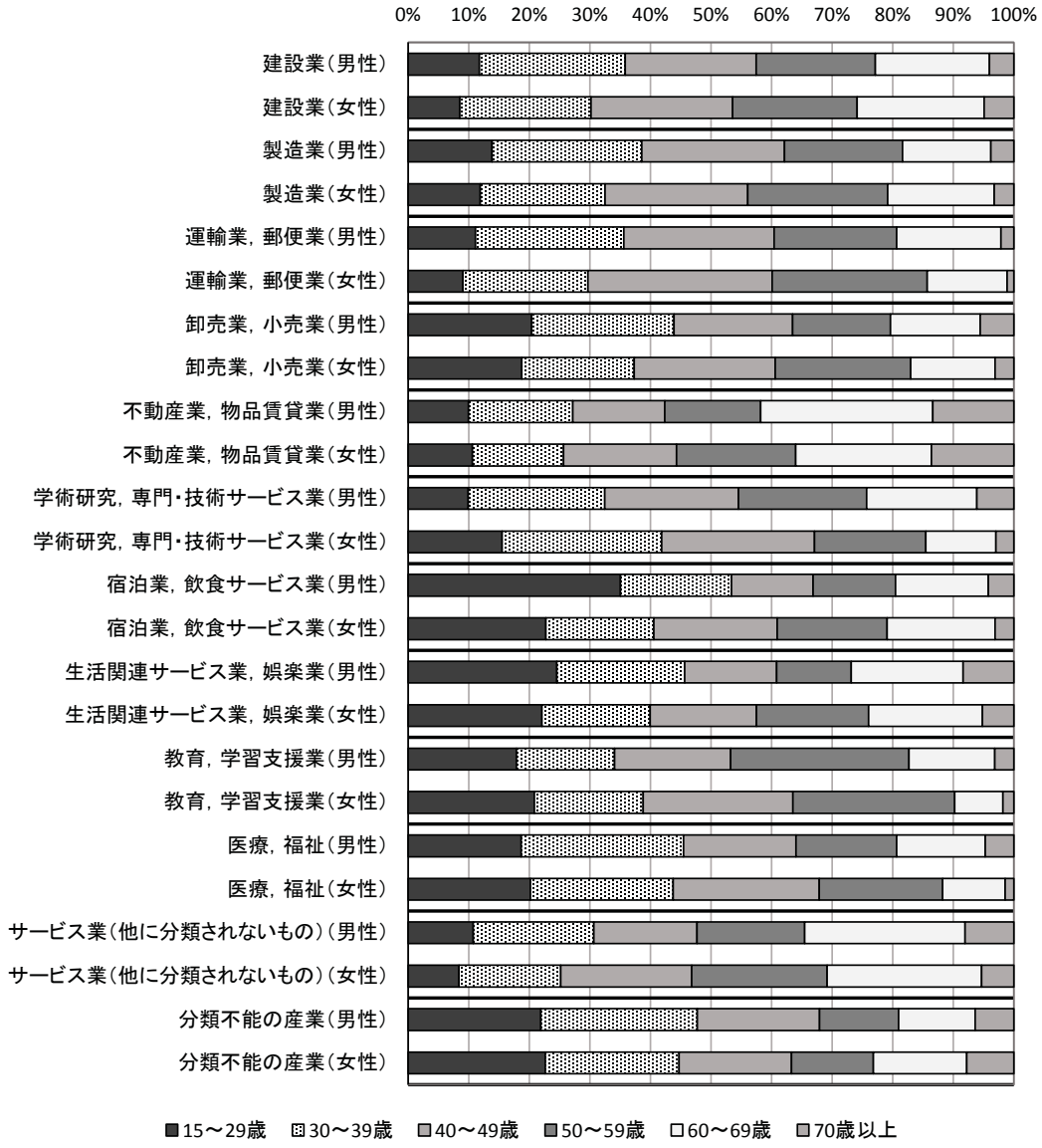
○埼玉県の就業者の年齢構成と比較すると、「建設業」、「運輸業、郵便業」、「医療、福祉」などで、埼玉県に比べ比較的若い就業者が多くなっています。



※男女合計の就業者数が 1,000 人を超える産業のみ表示

（出典）総務省「国勢調査」（2010 年）

図 33　戸田市における男女別・産業別就業者の年齢構成



※戸田市において男女合計の就業者数が 1,000 人を超える産業のみ表示

（出典）総務省「国勢調査」（2010 年）

図 34　埼玉県における男女別・産業別就業者の年齢構成

ウ．昼夜間人口の状況

○戸田市に住む就業者のうち、市内で働く人は約 35%となっています。戸田市で働く人のうち、市内に住む人は約 37%となっています。市内の産業が市民生活の 3 分の 1 強を支えています。戸田市に住み働く人の数は、2000（平成 12）年以降減少傾向にあります。

○昼夜間人口は、2000（平成 12）年以降 100 を切るようになり、2012 年では 93.8%となっていますが、他自治体と比較すると高い水準といえます。

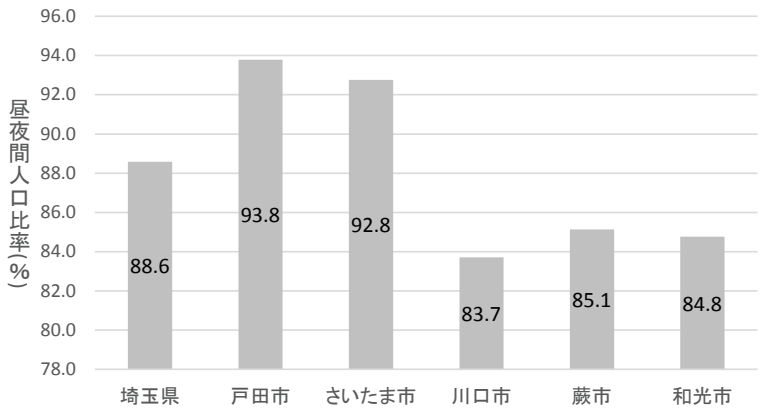
＊昼間人口とは、戸田市に常住する人口（＝夜間人口）に、戸田市へ通勤又は通学で流入する人口を加え、さらに戸田市から同様の理由で流出する人口を差し引いた人口。

○戸田市から通勤・通学する人の通勤・通学先を見ると、東京都特別区がいずれも約 37%と全体の 3 分の 1 以上を占めています。一方、戸田市に通勤・通学してくる人の常住地は、近隣のさいたま市、川口市、蕨市が多く、これらが全体の約 30%となっています。県内のその他の地域も合わせると、埼玉県内からの通勤・通学者が全体の約 4 割を占めています。

表 2　戸田市における常住地又は従業地による就業者数

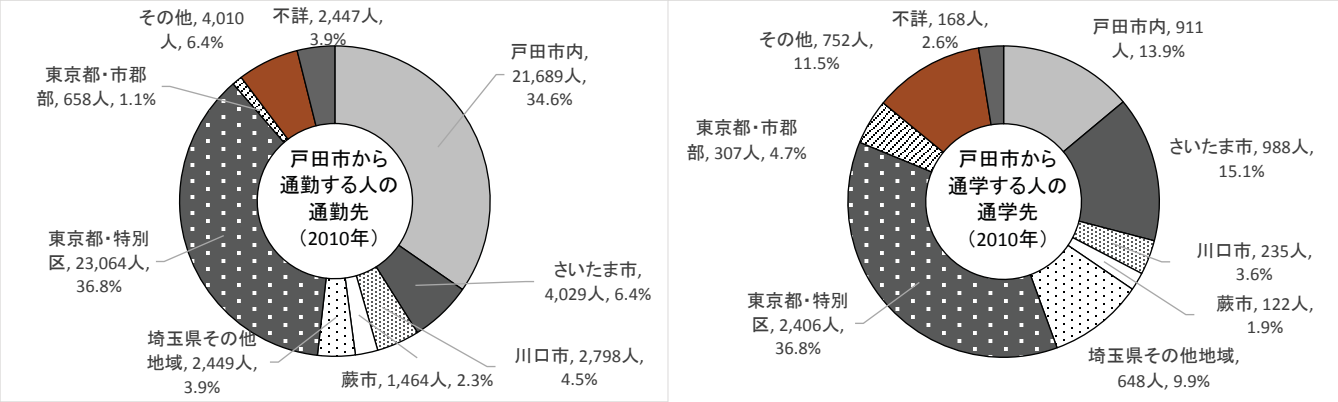
項　　目		2000年	2005年	2010年
常住地による人口	総数（＝夜間人口）	107,964	116,543	123,079
常住地による就業者数	市内で従業	24,791	25,350	21,689
	県内他市町村で従業	9,194	9,916	10,740
	他都道府県で従業	23,409	24,261	24,939
	従業地不詳	－	－	2,447
	総　数	57,394	59,527	62,608
従業地・通学地による人口	総数（＝昼間人口）	107,314	114,102	115,434
従業地による就業者数	市内に常住	24,791	25,350	21,689
	県内他市町村に常住	26,536	27,017	24,905
	他都道府県に常住	8,821	8,527	7,521
	常住地不詳	－	－	5,240
	総　数	60,148	60,894	59,355
昼夜間人口比率	昼間人口÷夜間人口×100	99.4%	97.9%	93.8%

（出典）総務省「国勢調査」（2000 年、2005 年、2010 年）



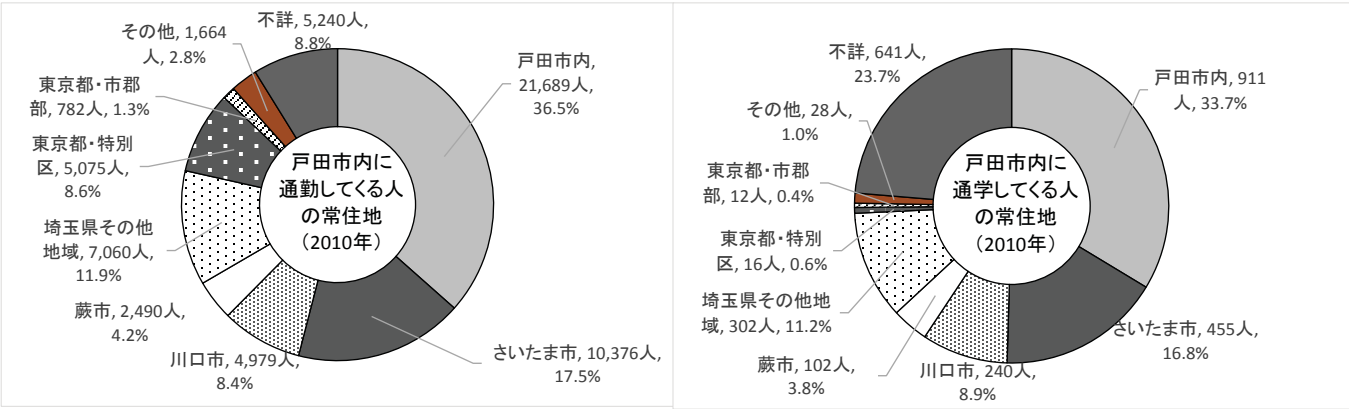
（出典）総務省「国勢調査」（2010 年）

図 35　戸田市及び周辺自治体の昼夜間人口比率の比較



（出典）総務省「国勢調査」（2010 年）

図 36　戸田市から通勤・通学する人の通勤・通学先



（出典）総務省「国勢調査」（2010 年）

図 37　戸田市に通勤・通学してくる人の常住地

（2）経営の見通し・雇用意向

○「戸田市『地方創生』にかかる事業者アンケート」によると、5 年後を見据え、成長が期待できるとする事業者は、5 割を超えます。従業員の増員予定も、「増やしていく予定」と回答した事業者が 3 割以上となっています。

○また、地域人材の雇用意向については、高齢者について雇用意向のある事業者は約 4 割、女性については約 6 割、外国人については約 2 割にとどまっています。「商業・サービス業・その他」の業種で、女性の受け入れに積極的な意向が見られます。

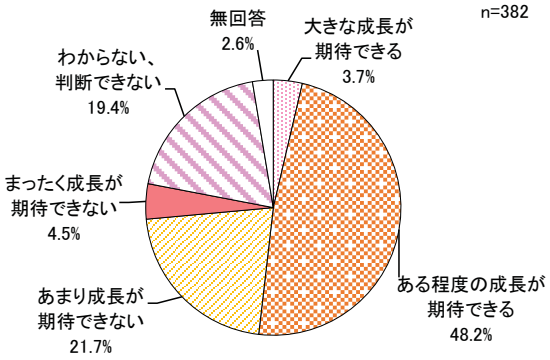


図 38　5 年後を見据えた事業の見通し

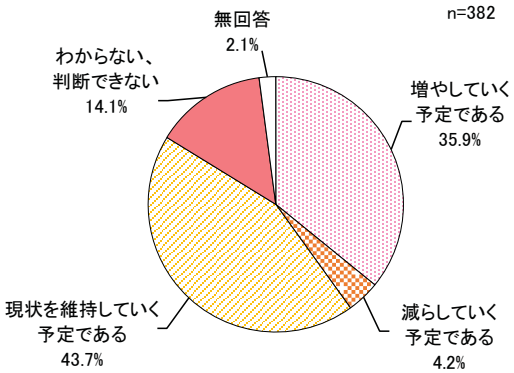
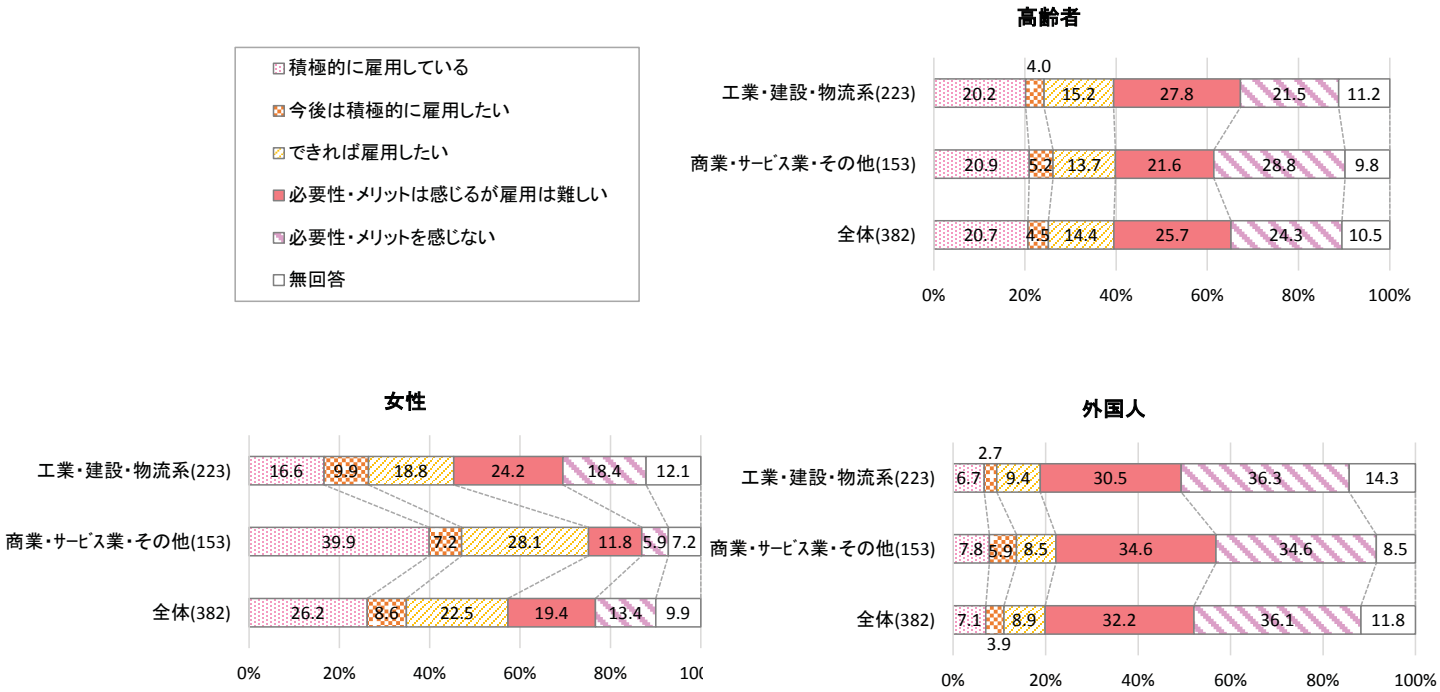


図 39　今後 5 年間の従業員の増減予定

（出典）「戸田市『地方創生』にかかる事業者アンケート」



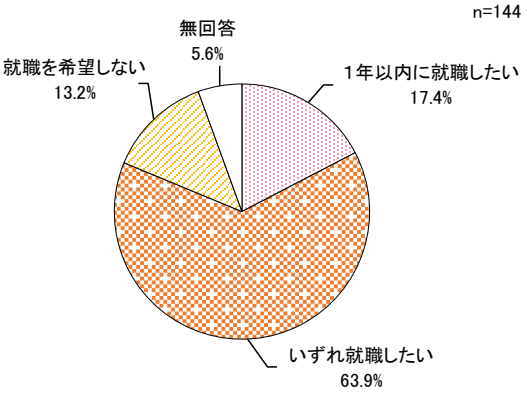
（出典）「戸田市『地方創生』にかかる事業者アンケート」

図 40　市内事業者の高齢者、女性、外国人の雇用意向

（3）就労に対する意識

○「戸田市人口減少問題に関する若年層アンケート」によると、現在就業していない人の8割以上が、就職を希望しています。

○また、現在「派遣・契約・嘱託社員」、「パートまたはアルバイト」として就業している人の約半数が「フルタイム（常勤）の正社員」を望んでおり、「家事従事者」の約6割が「パートまたはアルバイト」を望んでいます。



（出典）「戸田市人口減少問題に関する若年層アンケート」

図 41　現在就業していない人の「就職の希望」

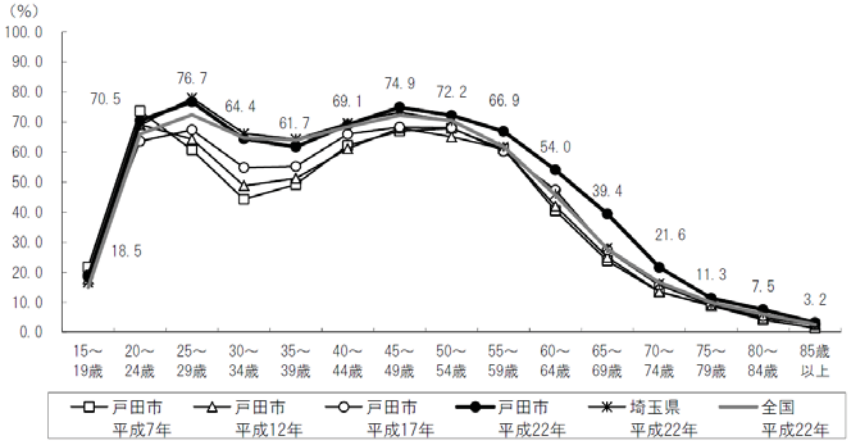
表 3　「現在の雇用形態」と「理想の雇用形態」の関係

理想 / 現在	フルタイム（常勤）の正社員	派遣・契約・嘱託社員	パートまたはアルバイト	自営業主、個人事業主	会社経営・役員	家事従事者	学生	無就業	その他	無回答
フルタイム（常勤）の正社員(303)	66.0	1.0	5.0	5.3	10.9	2.3	0.0	2.0	0.0	7.6
派遣・契約・嘱託社員(35)	57.1	11.4	8.6	8.6	8.6	2.9	0.0	0.0	0.0	2.9
パートまたはアルバイト(75)	46.7	0.0	28.0	6.7	1.3	8.0	0.0	0.0	1.3	8.0
自営業主、個人事業主(7)	0.0	0.0	0.0	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
会社経営・役員(3)	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
家事従事者(82)	15.9	3.7	59.8	1.2	0.0	17.1	0.0	0.0	0.0	2.4
学生(30)	70.0	3.3	0.0	6.7	13.3	3.3	0.0	0.0	0.0	3.3
無就業(32)	40.6	3.1	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	15.6	0.0	3.1
その他(5)	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0

（出典）「戸田市人口減少問題に関する若年層アンケート」

（4）女性の就労

○女性の労働力率は、30 代で県及び全国を下回っています。2005（平成 17）年と比較すると各年齢層で高くなっており、特に 45 歳以上では県、全国を上回っています。全体的に女性の労働力率は上昇しており、M字からほぼ脱却できる傾向を示しています。



（出典）「戸田市子ども・子育て支援事業計画」　　（資料：国勢調査）

図 42　年齢別労働力率の推移と比較（女性）

○子どもを持ったときの理想の働き方は、いずれの属性でも「家事・育児を優先し、可能な範囲で、短時間就労する」が最も多く、4 割～5 割を占めています。

○現在就業していない人の 75%が就労経験をもち、離職の理由で多いのは結婚、出産となっています。再就職では「勤務日・勤務時間」や「子どもの預け先」で困難を感じています。

表 4　子どもを持ったときの理想の働き方

		家事・育児に専念する	子どもが小さいうちは家事・育児に専念する	家事・育児を優先し、可能な範囲で、短時間就労する	フルタイムで就労する	わからない	無回答
	女性全体(352)	4.3	38.1	46.3	7.4	2.3	1.7
年齢別	20～24歳(40)	5.0	40.0	37.5	10.0	0.0	7.5
	25～29歳(74)	6.8	40.5	47.3	5.4	0.0	0.0
	30～34歳(109)	2.8	31.2	52.3	11.0	1.8	0.9
	35～39歳(128)	3.9	42.2	43.0	4.7	4.7	1.6
子どもの有無別	子どもあり(203)	4.9	37.9	48.8	4.4	3.0	1.0
	子どもなし(149)	3.4	38.3	43.0	11.4	1.3	2.7

（出典）「戸田市人口減少問題に関する若年層アンケート」

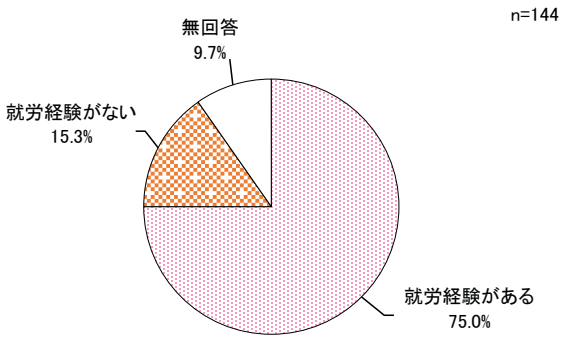
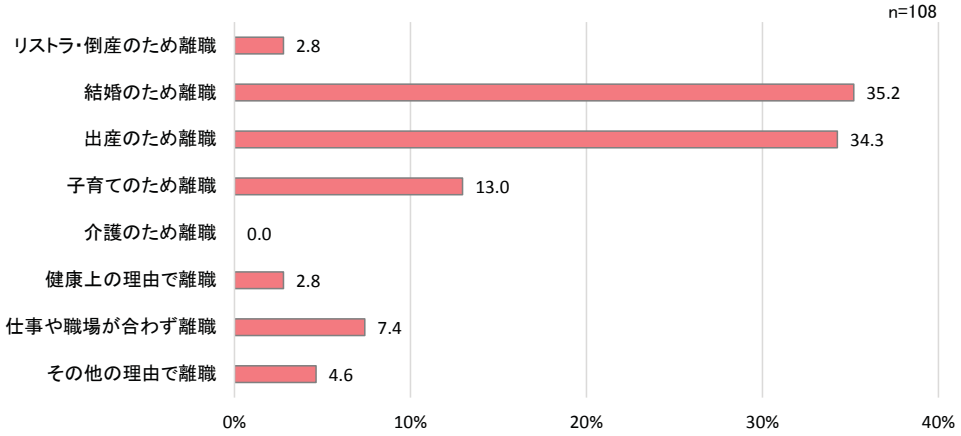
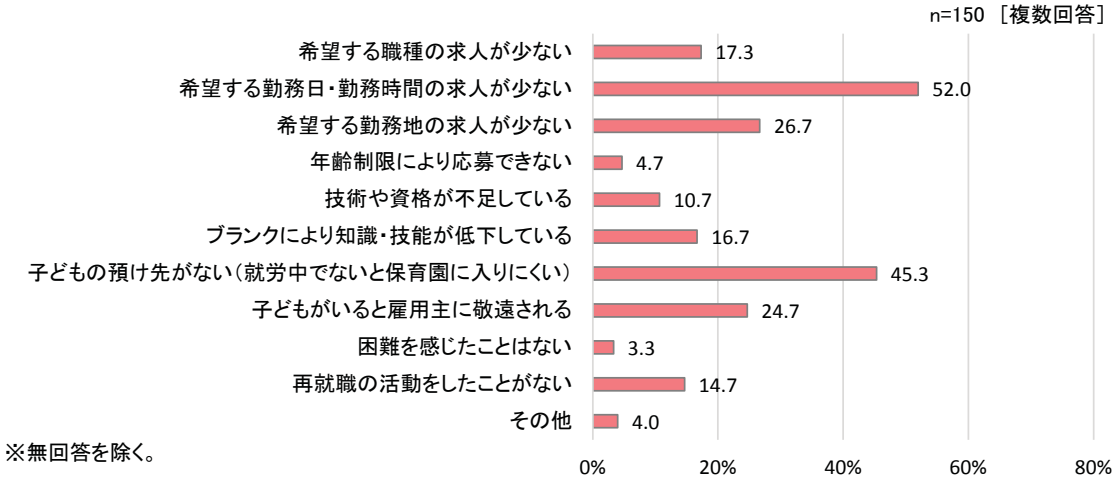


図 43　現在就業していない人の「就労経験の有無」



（出典）「戸田市人口減少問題に関する若年層アンケート」

図 44　就労経験がある人の離職の最大の理由



※無回答を除く。

（出典）「戸田市人口減少問題に関する若年層アンケート」

図 45　再就職の就職活動において困難に感じたこと